超能力学園

蜜柑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また 引用の範

(小説タイトル)

超能力学園

【コード】

【作者名】

蜜柑

【あらすじ】

近い未来の話

人類が超能力を発見し使うようになっていた。 人類の進化と言って

ι, ι,

しかし、 適性授業というのを少なくとも(中学2年生から)5年は受けなく 更に能力を使えるものをふやすために学生に能力を身につける能力 までつけないと、 てはならない。 それは若い間につまり中~ 高校生 (1 ちゃんとした能力を扱えない物だった。 0代から20前半)

唯一適性者が一番多かった日本に学園都市を建設し、 能力開発の学

校を多く設置した

けからその日から非日常になっていく。 った普通の日常を満喫している高校生。しかし、ある事件のきっか 主人公の一宮 守は今年、超能力適性高等学校に入学することにな

プロローグ (前書き)

バカなんです。 色々やり方間違ってるかもしれませんごめんなさい 温かい目で見てください よろしくお願いします どうも蜜柑です

プロローグ

出ないために学生を集めているそして今日引っ越してきたのだ。 能力はレベルで分かれている最低がレベル1で最高レベルで言うと6~8くらいだ。 が通うことになる学園は基本的に能力の高い連中が集められている。 うが高校生になってからは、能力の実技が入るため一般人に被害が入学することになった。高校に入るまでは学園都市の外で学校を通 俺は一宮 中学を卒業し今年、 学園都市内の超能力適性学園に

自由自在に操ることができる9レベルはもはや天才といってい 5レベルくらいで普通に使えるようになる。 6~8レベルは能力は まであるここは、レベル1~3はまだ能力を使えない物が多い 1 0レベルは未だ5人しか出ていないそうだ。 が 1 0 4

富で学園都市の外の暮らしとなんら変わ この学園には大人は人口の約3割で残りは学生だ。 施設なども豊

らない。面積もまずまずである。

だが、どうやら何かの手違いで俺だけ 俺の住む寮は学園都市の一番南にある。 学園は北方面のはずなの

生徒として数えられていなかったみたいだ。 に行くことになってしまったわけだ。 仕方ない ので旧学生寮

とにした。 ホントついてないな・・まぁ、 仕方ないから俺はその寮に向かうこ

かな?」 やっぱり、 結構遠い んだなだいぶ乗ってるのに未だ着かない 0

桜坂町」 に ンスが、 違いなので早急にやってくれた。 今日学園都市に入って、 達していた。 でございます。 かかった。 荷物などは先に寮に送られたらしい。 自分の学園で入学式を済まし疲労がピー お降りの際は荷物など そうこうしているうちに「次は「 ry 向こうの間 のアナ Ġ

俺は「やっと着いたか~早く寮のところ行って休もう」と疲れ

切った声で言った。電車の扉が開き俺は外に出た

プロローグ (後書き)

どうも蜜柑です。

文章力なくてすみません

誰か読んでくれたら嬉しいです!できれば、 感想もお願いします!

たいです!

おかしなところとかあったら教えて下さい!できるだけ直していき

停電? (前書き)

またよろしくお願いしますどうも蜜柑です

できれば、コメントや評価などもお願いいたします

駅前 PM11:50

もちらほら見当たる。 人がいて少し安心した。 人で歩くのは不安だ。 駅前はこの時間帯でも明るく人もまばらにいた、 言っておくが、決して怖いわけではない ぶっちゃけ夜の道を その中には学生

(結構遅くなったな。 この道をまっすぐ行ったあたりみたいだ)

も聞こえなくなっていた。 街灯や明かりが消えてしまっていた、 なんだ?疲れてるのかな?と思っていたら、 て人の声も遠くなってきたころの時だった。 地図を再度確認して歩きだし数分が経って駅の明かりが遠くなっ さっきまでの人混みの音まで 急な立ちくらみが来た。 いつの間にか、周りの

だな。そういえば、 っ暗のままだった。 それにしても、 で消すか普通・・・・。まぁい なんだ?もしかして、消灯時間とか決まってるのか?でも、街灯ま なんだ?!停電か?さっきまで聞こえてた人混みの音も消えた 本当に何も聞こえないなまるで、人が消えたみたい 今何時だ?守は、 いかあんまり深く考えないでおこ 携帯を出してみるが画面は真

気がしたんだけど。 あれ?充電切れてたか?さっき開いたときは、 まだあったような

だが、そんなのは関係ないようやく明かりを見つけたのだから。 ?よかったやっ よかった。 しばらく歩いてると明かりが見えてきたなぜかそこだけのようだ。 停電とかじゃなくて、 と見つかったよ~。 ん ?、 てかあそこ学生寮じゃ

そんなことを、 でもなんか、 寮ってよりも広めのビジネスホテルみたいな所だな。 思いながら寮の扉を開けた

学生寮 1 F ロビー

おじゃましまーす。 なんて、誰もいない・ のかな?」

ると。 らないな。 しなくていいのかな?てか、 中は結構広く本当にのホテルみたいな所だな。 もう夜遅いかもだから、上で寝てるのか?挨拶とかは、 俺の部屋は何階なんだ?とか考えてい でも、 人が見当た

っくりしてしまった。とにかく、 を掛けられた。声からして女の人のようだ。 あなた、 誰ですか?」と、 いきなり後ろから警戒していそうな声 まずは振り返って話そう。 いきなりだったのでび

るがそんなことより 「え!あ、 えっと、 あの」いきなり話し掛けられたのもびっ くりす

なぜか、 警戒されてるの?なんか、 に立っていたことが一番びっくりする。 戦闘をするかのような構えを取っている女の子が、 今にも向ってきそうな勢いなんですけど・ もしかして、めちゃ くちゃ 目の前

とりあえず話そう。

よね?」 「えっと、 ここって能適学園(超能力適性学園の略) 旧学生寮です

すか?」 え?あ、 はい。 そうですけど。 あ!もしかして、 宮 守さんで

知ってるのか? そうです。 すみません、遅れてしまって」なんだ?俺のこと

してきた。 「すみません!とんだ失礼をしてしまって。 」態勢を直してお辞儀

し。それと敬語もいいですよ。 「いえ、いいですよ。 こんな遅くに勝手に入ってきた俺も悪いです

たぶん同い年だろうし。

「そうですか?あ、えっと、私は、一之瀬」によるせ 空っていうの。 よろし

守よろしく」 まきる うん、こちらこそよろしく。もう知ってるみたいだけど俺は一宮「うん、こちらこそよろしく。もう知ってるみたいだけど俺は一宮

「えっと、今日は、 もう遅いから休むといいよ。部屋案内するね」

ありがとう!」本当にありがたい、今日は色々あって疲れた。

学生寮 2 F

この、 一番奥が守君の部屋だよ。 何かわからないことない?」

ないよ。ありがと」やっと寝れるわ。

そっか、詳しいことは明日説明するね。

「うん、わかった。それじゃ」

あのさ」ドアを閉めようとしたときに呼び止められた。

「ん?なに?」(できれば早くしてほしい)

「ここに来るまで平気だった?」

「?、なにが?」

「いや、何もないならいいの。おやすみなさい。」

「うん、おやすみ」

ていたらいつの間にか眠りに落ちていった。 部屋に入り荷物が届いてるのを確認してベットに横になった。 (なんか、 今日は変な日だったな・・・・ ・) そんなことを考え

停電? (後書き)

見てくださったがた、本当にありがとうございます なんか、良くなるように工夫したいんだけどうまいかないよ~

もっとオリジナルになるように努力します 若干ペル〇ナ3よりになっちゃうかもしれません。 ごめんなさい 今回は結構書けたと思うんだけどどうでしょう?

空さんと初登校! (前書き)

どうも、蜜柑です

目行くかもしれません。 3日に1本のペースで行きたいと思っています。 気が向いたら2本

基本的、主人公視点です。

なるべく、早めに出せるように努力します。 今更ですが、この物語は結構長くなるかもしれません。

楽しんでいただけるだけで、幸いです

空さんと初登校!

学生寮一室 AM6:00

ערתתתת

朝、携帯の目覚まし音が部屋に響き渡る。

ぐっすり寝てたと思ったんだが。 「う~~ん」朝か、 なんかあんまり寝た気がしないな。 昨日は結構

眠い目をこすりながら洗面所に向う。 すまし出る支度していたら。 顔・歯・髪などを洗い食事を

(コンコン) ん?誰かノックしたのか?

之瀬 「あの~、守君起きてる?入っていいかな?」 空さんだったかな?え、 なに?起こしに来てくれたの?! ぁੑ 昨日の確か、

ヮ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ うん、 起きてるよ。 入っていいよ。 ᆫ なんか、 少し緊張するな

おはよ守君、眠れた?」

うん、まぁ」正直まだ寝足りないけど。

たんだ。 「そっか、 だから一緒に行こ!」 よかった。 あ、 先輩に今日学園まで案内しろって言われ

「え、あ、いいの?」

うん、 全然いいよ。 私も守君に色々と説明しないといけないし」

髪で容姿は上の中くらい、それ以上かもしれん。それに声も可愛い ぎる!しかも、昨日は色々あったし疲れたが溜まっていたからきず かなかったけど、空さん結構可愛い!髪型はストレートロングの黒 マジかよ!女の子と登校するなんて小学校低学年以来だ、嬉しす こんな可愛い子と登校!

「守君?どうしたの?ボーとしちゃって」

ぁ いや何でもないよ!」とりあえず落ち着こうか俺

「先に下に降りて待ってるからね。」

うん、わかった」

待たせると悪いし俺も早く下に降りよ。 入学早々、 良いことありまくりじゃないかな。 とにかく、

駅のホーム AM7:30

プルルルルルルル

守君、なんとか間に合ったね」

見つからなくさ」 「うん、 ごめんね。 生徒手帳どこに置いたか忘れちゃってなかなか

走ってきたので、二人とも息が上がっている。

「ううん、 別に良いよ。 忘れたりするのは、 私もしょっちゅうある

ああ、なんて優しいんだろ癒されるは~~

がいると思ったけど案外少なく席もあまっていた。 電車のドアが開き中に入り座席に座り空さんが話し始めた。 結構人

どいのに。 あんまり混んでいないんだ。 」外では、 朝は通勤ラッシュで、 ひ

行く人もいるし。 んだよ。 「うん、 殆ど学生だけだからね。 それにここは、 駅の始めのほうだから人がいない 電車の人もいれば自転車や歩いて

「へ~そうなんだ」

「えっと、 まず何から話そうかな?何か、 聞きたいことある?」

えてみるとなんで女の子と同じ寮なんだ? hį ぁੑ そういえば、 あの寮って女子寮なの?」よくよく考

かわからないけど、 いや、 違うよ。 男子寮でもないんだ。 クラブの寮みたいなのかな?」 あそこは、 何て言えばいい

が \neg 俺がそんなところにいていいの?」そのクラブに入ってない んだ

居るって言っても新しいほうの寮が決まるまでだよ。

仕方ないか・ 落ち込むは~せっかく可愛い子と一緒の寮に入れたと思ったのに。 そうなの」空さんが「うん」 と即答してきた。

確か、 0日くらいでちゃんとした寮に入れるよ」

「そ、そっか~」

「他に何かある?」

この学園に詳しいみたいだけど入ってきたばっかりじゃないの?」

うん、 私この学園の特別中学に通ってたから。

生徒は中学でこの学園都市に入れるのだ。 である普通は中学までは外で授業を受けるのだが能力が高く優秀な「え!すごいね!」特別中学とは、この学園に数少ない中学の一つ かなり頭もいいのか!どんだけ完璧なんだ ということは、 空さんは、

かしがる空さんは可愛かった 「そんなことないよたまたま能力に恵まれただけだよ。 Ļ 恥ず

で、どんな能力なの?」

それは、秘密」

なんで?」 秘密とか言われたら余計知りたくなるだろ。

せめてレベルだけでも!」

仕方ないな~レベルは9だよ」

「きゅ、9!すご!」

空さんは、意味ありげな顔をしていた。 く聞こえなっかたけど、その時の 「でも、実戦ではあんまり使えないんだけどね・ Ļ 俺はよ

「え?なに?」なにその、真剣な顔?

「ううん、何でもないの、気にしないで。」

おくか 「そう?」まぁ、 あまり詮索しないほうがいいだろうからしないで

そのあと、 ほかに色々聞いて時間が過ぎて行った。

(次は能力適性高校前でございます。 お降りの際は荷物など(以下

「あ、着いたね。降りようか」

「うん、 幸せ噛み締めていた時に空さんのほうから話しかけてきた。 そうだね」いや~楽しい時間だった。 幸せだったな~と、

私ちょっと用事あるから先に行ってるね。 バイバイ

バイバイ~」じゃ、 俺もクラス表見に行くかな。

昨日は、 学園の体育館に15時集合し入学式を行い校長や役員や

式を早めに終わらせ新入生などを帰らせるそうだ。 組合などの話などがかなり長引き19時に終わった。 11時までと、 くみたいだったが、あまり遅くなると門限を越してしまうので入学 決まっている) (因みに門限は 本当はまだ続

げで空さんとも会えたし良いとしよう。 なったのだ。その手続き等で随分と遅れてしまったでも、 らよかったが。 ていなくて新学生寮には行けず仕方ないので旧学生寮に行くことに まぁ、 19時に終わってもまだそんなに遅くならないで帰れ 前にも言ったが学園側の手違いで俺は数に数えられ そのおか

ため渋滞が等がものすごく続くのだ。 言われている俺も実際ぎりぎりの到着だった。 越してくる奴がいるため、遅れたりする奴が沢山いたみた 15時になったってわけだ。 ことなんだけどな。 人証明等で色々と手間をかけさせられる。 因みに、 なぜ15時から入学式かというと俺みた 最低15時までには学園内来ることと しかも、 まぁ仕方のないことない 学生が一斉に集まる 都市内に入る時は本 61 に 昨日に引 いなので、 つ

だのは、 見に行っ 俺は「 た。 初めてじゃない 空さんと一緒のクラスに」と願いながら走ってクラス表を なんと!見事に一緒のクラスだった多分こんなに喜ん かってくらいに喜んだ!

で の叫び声が周囲の奴等をドン引きさせていることもしらない

空さんと初登校! (後書き)

女の子ってちょっと動かしずらいですね。どうも蜜柑です

本格的なバトルはちょっとまだ先かもしれません 模擬戦みたいな感じでだそうと思っています。 なかなか、バトル展開にならないです。 いちよう、次回かその次にちょっと出してみたいと思います。

次回もよろしくお願いします!

初授業=能力 (スキル)模擬戦 (前書き)

蜜柑です

出来るだけ、面白くなるように努力します 初バトル展開(?)です。うまく書けるかわかりませんけど

楽しんでみてください!

初授業= 能力 (スキル) 模擬戦

1年F組教室内 AM8:45

ている。 の担任がまだ来ないのだ生徒たちも、 教室内が騒がしい。 俺も空さんと話をしていたところだった それもそうだ、 待ちくたびれて会話などをし 普通なら30分に来るはず

それにしても、先生遅いね。」

もいいと思っている。 うん、 どうしたんだろ。まさか、 まだ空さんとも話したいし。 遅刻とかw」俺はまだ来なくて

まさか~それはないよ~」と、 笑顔で返して来てくれた。

くりして教室が静まり返ってしまった。 いよく開き男の人が入ってきた。 話が結構弾んできたころに、いきなり教室のドアが「バン」 いきなりだったので全員が、 びっ と勢

先生かな?」

服とかも、 のか分からない。 いや、 しわだらけだった。 どうだろう」その男は見るからに眠たそうな顔つきで とてもじゃないが先生と呼んでいい

睡三です。よろしくない。遅れてすみません。 よろしくな~」 今日から君たちの担任になってしま

うだ、 教室内が「え!」っていう空気になったのは感じ取れた。 こんなやる気のなさそうな奴が教師と思うのも難しいことだ。 それもそ

あの、 なんで遅れたんですか?」と、 ほかの生徒が聞いた

ん?ああ、 昨日夜遅くまで起きてたからな。

が返ってきた。 「ああ、 残業とかですか?」と、 俺が聞いてみると予想しない答え

「あ?いや、朝までネトゲーしてた。」

のかこの教師は、 あまりに予想外の答えに再び教室が沈黙してしまった。 てか、 教師事態なのが既におかしいと思うのだが。 大丈夫な

前ぐらいしか名乗ってないじゃんかよ! 「まぁ、 挨拶はこの位でいいだろ~。 」ちょと待て、 挨拶も何も名

ちは第3体育館に集合しておくように。 らさっさと行っておいてな、 3人一組のチームをこちらで、ランダムに決めちゃうから、お前た 「とりあえず!だ。 これから君たちに能力模擬戦をしてもらいます。 こっちは準備みたいのがあるからさ」 詳しいことはそこで話すか

えっと、 何だ?その能力模擬戦ってやつは? 確か学園の東側だったよな。 とりあえず向かうか。

守君、一緒に行こ!」

ぁ うん!いこいこ!」 空さんと一緒の組だったらいいな~。

能適学園 第3体育館 AM9:05

集まってろって言っといてまだ、 先生来てないじゃ

「でもさ、なんか色々置かれているよ」

綺麗に沢山横たわっていた。 そこには、 人が横になって入れるくらいのカプセル?みたいのが、

体育館ってよりも、 何かの実験場みたいなんだが」

らまたしても、担任がいきなり登場してきやがった うん、 そうだね。 これで何かするのかな?」などと、 話していた

よぉ、 集まったな~それじゃ、 説明するからよく聞いとけよ~」

相変わらずめんどくさそうな話し方だな。 若干いらつくぞ

界でもちょっとした痛みはくらうからその辺理解しておけよ~。 生に入ってからの初めにやる授業だから~。 特に勝負は偏らないことになっている~。それと、バーチャルの世 の奴らでも初めてやることになる。 夢の中のバーチャル世界で戦ってもらいま~す。この模擬戦は高校 その機械はバーチャルリアリティーの世界を見せる機械でお前らは これから、 ムで協力して戦ってもらうので負けたチー 実戦に近いほうがいいからだそーです。 お前らはその機械の中にはいっ だから、 皆無経験者同士なので 特中 (特別中学の略) て寝てもらいま~す。 ムはカプセルから出 それから、これは な

疲れた」 て んくても、 チーム内で、 そこのモニターでほかの奴らの戦いを見てもらからな~。 もう言わね~。 誰か負けたらそこで即退場だからな分かった?解から 質問は受け付けないから~。 以上!あ もし

な。 説明は何となく分かったが、 やっぱりこいつ少しだけ、 いらつく

れた! チー ムは、 ランダムで決まり俺はまたしても、 空さんと一緒にな

一緒だね守君、お互いがんばろうね!」

うん、 もちろん、 空さんがいれば負ける気がしないよ」

「もー、買いかぶりすぎだって」

たいだった。 等と、 俺の初リア充?っぷりの会話はほかの奴らに火をつけたみ

とりあえず、 くなったかと思えば学園内の外に居た カプセルに入り目を閉じた。 すると目の前が急に明る

ったのが青色の服になっていた。これも、 それに、 んはどこだ?同じ場所に出てくるとかじゃないのか?と考えながら 「えっと?これがバーチャル世界なのか?かなりリアルだな・ いつの間にか服が着替えられている」さっきまで、制服だ バーチャル?てか、 空さ

周りを見渡していたら遠くの方から空さんの声が聞こえてきた。

守君~」空さんが走って来た

服が青色になっていた。 俺も、 走って向いに行った。 近づいてきずいたが空さんも制

バラバラのところに出るようになってたみたいだね」

?」心配そうに空さんが言ってきた 「そうみたいだね。 もう一人のメンバーさんは、 何処に居るんだろ

いと思うし。 「多分、大丈夫なんじゃない?流石に敵の近くや空中に出すはずな 近くにいると思うから

捜してみよ」

のほうを捜してみて。 分かった。 私は、 来た道を戻って捜してみるから、守君は向こう

うん、 わかった気をつけてね」

てるように見えた。 うん」 っと言って走って行った。空さんは、どことなく張り切っ

6 合流しよう。 はずだ多分この学園内だけぐらいだと思う。 よし!俺も行くかな。 敵と間違えないだろう。 多分、 それに戦闘範囲だって、そう広くない 同じ青色の制服を着ているはずだか 早く見つけて空さんと

しばらく先に行くと人が倒れていた。

だな。 な。 退場になっているはずだ。 は走ってそいつのそばまで行き起こしてやった。 いた。 でも、 多分あの人だ青い制服も着ているし。 どうしたんだ?やられたのか?でも、 もしかして、まだ起きてないのか?」俺 制服からして男の人 それなら俺らも

っ お い ら言った。 !どうした!大丈夫か?!」と、 言ったらそいつは唸りなが

ううう・・・・腹減った・・・・」

ヤ ル世界で? は?腹減つ た? なんだこいつ?もしかして、 生き倒れ?バーチ

はずないだろボケ!っと言ってやりたいが、 ならんせめてやる気だけ出さなくては。 何も食べないできちゃってさ、 なんか食うもんない?」 こんなんじゃ戦力にも ある

ったらそいつは行きなり飛び上がってきやがった 後で、 何かおごってやるから。 とりあえず今はがんばれ」

たいだ。 ?!まぁ、 丼は550円だから!」ちょと待て、 ホント!マジありがと~財布も忘れちゃっててさ~学食の牛 今は仕方ない。 とりあえずやる気だけは出してくれたみ 誰が牛丼おごるなんて言った

えると知っ えっと、 たらこの変わりようか。 俺の名前は、 東海林 誠二だ!ヨロシクな! テンション高すぎだろ 食物食

俺の名前は、 宫宫 守ってんだ。 宜しくな。

ましいな~!」 あ〜。 守ってさっき可愛子ちゃ んと仲良くしてた奴だろ。 うらや

言ったものの、 いや、そこまで仲がいいってわけじゃないんだけど~」 顔は、 にやけているかもしれない。 とは

そうなの?じゃあ、 俺にもチャンス有るかもってこと?

あるって意味じゃないが。 そういう訳じゃ ねえよ!」 なに、 言いだすんだこいつ!別に俺に

まぁまぁ、冗談だって~妬くなって」

お前だと冗談に聞こえないんだよ・ クソーなんか調子狂うな!こいつ って別に妬いてねー

もりん」 「とにかく、 あの子と一緒なんだろ?早く合流しに行こうぜ~。 ま

と思った瞬間にいきなり空が暗くなった。 誰がまもりんだ!たくつ!」 Ļ 誠二と会話がやっと終了したか

頭上で浮いた ん?何だ雲か?」 Ļ 上を見上げてみるとそこには、 車が俺らの

けて落ちてきた! え ? !何アレ?!」 と誠二も驚いていると、 その車は俺たちめが

のわぁ!!」 俺は、 出したことのない悲鳴を上げて横に逃げた

じだ 車は地面に直撃して土煙をまき散らした。 ギリギリセー フって感

あぴゃ 誠二!それは悲鳴なのか?! じゃなくて!

'お、おい!大丈夫か誠二!」

ら無事のようだ。 なんとか~」 煙の向こうで誠二の声が聞こえてきた。 どうや

でもいったい誰が」

らい先の階段の向こう側に人影が見えた。 わっかんね~」煙も晴れて誠二が見えてきたぐらいに、 1 5 m ぐ

あ、多分あいつだ!階段の上のやつ」

あの野郎か!よし!今すぐ行ってやっつけてこようぜ!」

たらこっちもやばい!とりあえず空さんのところに行こう!」 「待て誠二!相手は多分、 サイコ (念動力) 使いだ!迂闊に近づい

もんな!」 ぁੑ あぁ分かった。 確かにそうだな女の子一人にしてやれね

よし!走って振り切るぞ!」

おおよ!」

投げてくるのが音でわかる。 走って振り切ろうとしても後ろからサイコ使いが車や木岩などを 怖いのであまり見たくない。

「あっ!・・・・ちょっと待て!」

うん?どうしたん?まもりん!早く行かねぇと」

'決めてない」

-^?

決めずに出てきてしまってたのか! 「空さんとの集合場所決めてなかった」よく考えたらそんなことも

ちょ !それは!どんな天然さんだ!かわいいな!」

ない」と、思ってたら。 「言い方が気になるが、 空さんの声が聞こえた とにかくさっき居たところまで 行くしか

(守君、大丈夫!)

いが遠くの方に見えるだけだ。 「え!あ、 空さん?どこに居るの?」 見渡しても、 誠二とサイコ使

(私の能力なの。 今、守君の頭に直接話しかけてるから)

ずなんだけど レパシー的な能力は相手が何処に居るか把握しなければ使えないは「えぇ!そうなの?!でも、なんで俺の居場所がわかったの?」テ

き会った場所の奥にある体育館に居るから!) (詳しいことは、 後で話すから。 今は相手を振り切って!私はさっ

「分かった!今すぐ行くから!」

二には、 お 聞こえないみたいだ い!誰と話してるんだよ。 まもりん!」 俺たちの会話は誠

後で話す。 お前、 あいつを目くらませること出来ないか?

え!出来るっちゃ出来るけどでも、 逃げるのが先なんだろ?」

いいから!ともかくやってくれ!」

っててくれ!」 うっ し!よく分からんが、 分かった!危ないからちょっと先に行

るやつなんだな おう !分かった!」 なんだかんだで、 頼りになるときは頼りにな

誠に、 立ち止りその場で深呼吸をして精神を集中してるみたいだ

った。 たりー たりー 「うお 面の地面にひびが入り盛り上がり崩れて、そこから土煙があ りゃあー 面に撒き散らした。 !!」と言って誠二が地面に手を着けた途端にあ まるで、 ビルが崩れた時ぐらいの土煙だ

たがあれには普通に俺も感心した。 おお!掛け声はカッコ悪いがすげ 能力だな!・ 離れてみてい

「お~い」誠二が土煙の中を走って来た

「おお、お前って、結構すごいんだな!」

鉱物を操れる能力なんだよ。」「まぁな、やっと気がついたの がか。 ちなみに、 俺の能力は、

「あのまま、倒せたんじゃないか?」

ん?いや、 俺は、 あれ位が今は限界ないんだよ」

凄いのだろうが そうなのか?」凄いのか凄くないのかわからんやつだ。 多分

それより、早くしないと来ちゃうぜ」

「あ、そうだった。急ごう!」

めされているのかは、 はいよ~」後ろの奴はまだ追ってこないようだ。 分からないが 土煙程度で足止

まった。 さっきの誠二との会話で生まれた不快な気分が一気に吹っ飛んでし 育館近くに着いたら空さんが手を振って迎えてくれたことで、俺が その隙に俺たちは空さんの待つ第二体育館まで走って行った。 体

(やっぱり、俺のオアシスだな空さんは。)

初授業= 能力 (スキル) 模擬戦 (後書き)

どうも、蜜柑です。

戦闘シーンて、表現しにくいですね。

努力していきます

前編で新キャラが二人出してみました。

今後も誠二君には登場してもらいたいと思います。

今回の話は前・中・後で分けていきます。

次回で勝負の決着をつけようと思います。後半は、 勝負後の話みた

いな感じです

次は明日か明後日には、出そうと思っています

戦闘も、 がんばって盛り上がるようにしていきたいです

初授業= 能力 (スキル) 模擬戦 中編 (前書き)

蜜柑です。

模擬戦は、この話で決着つけようと思ってます。 もしかしたら、長くなるかもしれません

初授業=能力 (スキル)模擬戦 中編

バーチャル世界 学園内第2体育館内

俺たちは今、集合して体育館にいる

「守君大丈夫だった?」

「うん、 まぁ何とかね。 空さんは大丈夫だった?」

「うん、私は何もなかったよ」

「そっかよかった。」

に割って入ってきた 「ちょっと!ちょっと!俺のこと忘れてない?!」誠二が無粋に話

「忘れてねーよ。安心しろ」

さず誠二が自分から名乗ってきた 「えっと、守君、こちらの方は?」空さんが俺に聞いてきたらすか

「ども!東海林 誠二です!宜しく!」

「うん、 よろしくね。 私は、 一之瀬 空っていうの」

空ちゃんか~可愛い名前だね!」

「え!そ、そうかな~」空さんの顔は赤くなっていた。

おい、もうその辺でいいだろ。」

「また妬いちゃって~子供だな~」

゙またそれか!」

ながら言ってきた 「えっと、 兎に角今はどうするか考えようよ」空さんが少し戸惑い

うん。そうだね」やべ、 心配かけちゃったかな?

`そうだよ~まもりん」

お前、牛丼奢らんぞ」

んだよ 「すみませんした!!」土下座してきやがった。 どんだけ食いたい

·フフ、仲がいいんだね」

「え!」マジで?こいつと?

「そうなんだよ~もう友達以上みたいな?」

「早速面白い友達ができてよかったね。守君」

まぁ、そうかな?」まぁ、 悪い奴では無さそうだが

空ちゃんも友達だよ~」なっ!こいつ平然と

嬉しい。ありがとう~」空さんまで!

「俺も空さんの友達だから!!」

ありがと~守君」

つい言ってしまった。でも、結果オーライだな

てないかな? ともかく今はどうするか作戦を立てよう」やべ、 顔赤くなっ

· うん、そうだね」何とか話は逸らせたな

そういえば、さっきはどうやって俺に話しかけたの?」

「え?あぁ、あれはね私の能力なの」

てもらえなかったんだよな 「へ~どんな能力なの?」そう言えば、 電車の時に聞いたけど教え

「えっとね、千里眼って知ってる?」

遠くの者を何でも見通すやつでしょ」 確か昔本で読んだことがある

「そうそれ、私はその劣化版みたいなやつなの」

劣化版?どゆ意味」誠二が不思議そうに聞いてきた

私の本当の能力は、別にあるの」

え!それじゃ二重能力所持者なの!?」

るために出来た言葉である。 力が付くと言われているが、稀に二つ以上所持できるものが存在す んはそれを二つとも使えるらしい流石というべきなんだろう しく消耗するために実際は一つしか使わないのである。 そうなんだ。 」二重能力とは、 しかし、二つを所持した場合精神が激 普通なら人一人に一個の能 でも、

すげー!空ちゃんすげー!」

ああ、 確かに凄いなレベル9の理由が分かったわ」

は しか見れないの」 「そんなことないよ。 私が会ったことのある人かエネルギー(能力)を発している人 それに、 有効範囲も結構狭いしそれに、 これ

いせ、 空さんそこは、 素直に凄いと思うよ誇るべきだより

「えへへ、ありがと~」

「で、これからどうすんの?」

「あっ、忘れてた」素で忘れていた

「しっかりしろよ。 まもりん」

とりあえず、作戦を立てよう」

「そうだね」

だ。 からない面倒な能力じゃないことを祈るだけだ。後はルールの確認と思う。だとしたら厄介だ、一人の能力は知ってるが後の二人は分 と思う。だとしたら厄介だ、一人の能力は知ってるが後の二人は分あとの二人はまだ分からない多分相手は、もう仲間同士で集まった まずは、 確か相手を一人でも戦闘不能にすれば勝ちだったはずだ。 今の状況を把握しよう。 相手は3人で一人はサイコ使い

鉱物から武器を創るとか」 おい、 誠一。 お前さっきの技 (?) 以外に何かできるか?例えば

したら。 「え?いや、 どうだろうな。多分出来ると思うぞ形をはっきり想像

そうか!じゃあ、刀とか出せるか?」

刀か~。 まぁ、やってみるけど出来ないかもよ。

かび上がってきた。 そう言って誠二が地面に手をやりその部分が歪みだし刀の形が浮

るところで誠二が力尽きた。 おお、 がんばれ!あともう少しだぞ」あともうちょっとで完成す

える 刀とも呼べなくはない物に出来上がっていた。 「だめだ~。 疲れた!。すまんが、これで勘弁してくれ。 だがこれでも十分使 それは、

ああ、 十分だ。 後でもうちょっと手伝ってもらうぞ」

「まだあるの!」

あったり前だろ!牛丼奢るんだぞ!その分の働きしろ!」

人使いが荒いよ~まもりん」情けない声を上げながら誠二が言った

それと、空さんはここで、 敵の動きを教えほしい。

うん分かった」

に敵が近づいてきたら教えてほしい」 「よし!行くぞ誠二!詳しいことは行きながら話す。 空さんは俺ら

だがな 二人とも頷きこれからの戦闘に緊張しているみたいだ。 俺もなん

バーチャル世界 学園内 グラウンド

通りにやってくれよ」 「ここに居れば敵も気付くだろう。 誠二はさっき、打ち合わせした

のな」 あぁ 分かってんよ。 それにしても、 お前の能力って結構すごい

別に、 ないと使えないんだ。 それにこれは、 俺一人では何もできないんだ。 ほかの奴が

まぁ、そうかもしんねーけどさ」

ほら、 もういいだろ。 そろそろ来るかもしれないし」

(守君に誠二君!相手の人たちがそっちに向かってきてるよ!)

「噂をすれば何とやらだ。準備しろ誠二!」

はいよ!」地面に手を着け集中し始めた。

の横に移動してきた し投げてきたのはさっきの奴だな。 相手がこっちに気づいたのか攻撃をしてきた。 後の二人は二手に分かれ俺たち 念動力で物を浮か

挟み撃ちか!だけど、 グラウンドに入った時点でアウトだな!」

どうやら、残りの二人は発火能力と分身能力みたいだが、敵が接近して攻撃を始めてきた。 らいなら関係ないな! そんのく

今だ誠二!」俺が合図すると誠二は地面を強く押した。

壁で囲を作り閉じ込めた。 使いが飛ばしてきた木や車を止め、 地面が激しく揺れて俺たちの周りを土の壁が出来上がり、 横に居る二人の敵の周りに土の サイコ

だけだ!」 「よし!あれで、 当分出てこられないだろ。 後は、 あのサイコ使い

グラウンドに入ってなかったサイコ使いには、 囲が作れなかっ た。

一俺が行くから援護してくれ!」

分かった!」

を作り何とか当らずに傍までやってきた まで走って向った。 さっき誠二に作らせた刀(?)を持ち、 その際にも、 念動力で攻撃してきたが誠二が壁 サイコ使いのそば

が当たらないとそりゃ焦る クソー寄るな!」 相手も焦っているようだ。 仕方ないことだ攻撃

相手のすぐ目の前にやってきた俺は刀を振り上げた。

さず相手の腕をつかんだ。 相手が俺を念動力で吹っ飛ばそうとした瞬間に俺は透か 意味も無く掴んだわけけではない

つ た。 掴んだ腕も離されてしまった 俺は相手の攻撃で10mぐらい飛ばされてしま

あぶね~」と、 相手が安堵している隙に俺はまた、走って近づいた

やコンクリー しつこいんだよお前!」と言って、 トの破片を一気に集め巨大な球体を作った 手を空に向けそこらへんの土

゙ッ!なこともできるのかよ!」

体がこっちに向かってきた 「これで!終いだー ! ح 勢いよく手を下に振り下ろしたら、 球

くっ !行けるか!」 俺は、 手を球体の方に向けた。

そしたら、 球体が俺の寸前で止まった。 というよりも止めた

な!お前!どうやって!」 相手も驚いている。 俺も出来て安心し

ているところだ

「お前から貰ったんだよこの能力は!」

「お、俺から?一体どうやって?!」

さっき、 俺が吹っ飛ばされる前にお前に触っただろあの時だよ!」

`そんな!く、くそ!一体どんな能力だ!」

使えるようになるんだよ!」 「俺の能力はな、 能力吸収っ ていうやつでよー時的に相手の能力を

なっ!ひ、卑怯な!」

た刀で切りつけた。 「卑怯で結構!!覚悟しろよ!」俺は相手に素早く近づき持ってい 切った時の感触は妙にリアルだった

ちだな。 ル内での体) 「うわぁぁ が切り裂けた。 血は出なかったが相手の電子体(バーチャ 少し罪悪感はあるがこれで俺たちの勝

ちってことだと思う。 空に大きくWINの文字が青く浮かび上がった。 多分俺たちの勝

誠二が飛びついて来た 「まーもー ָרו ו ん!!勝ったぞ!俺らの初勝利! と言って

のわ !離れろ!暑苦しいわ!」 俺は誠二を蹴り飛ばした。

照れんなよ~ まもりん!」

照れてねぇよ!!」本気で嫌なだけだ

遠くの方から空さんの声が聞こえてきた

お~い、守君~誠二君~」

あ!空さん!」

おぉ、空ちゃん!」

「二人ともやったね!二人のおかげで勝てたね!」

いや~それ程でも」と、得意気に誠二が言った

勝負をつけたのは俺なのだが」

細かいことは気にすんなよまもりん~」

はぁ~なんだか色々疲れたわ」

お疲れ様。守君」

ありがと~空さん」

会話が終わると同時に周りが光に包まれ気が付いたら目を覚まし

ていた。

すべての模擬戦が終了した。 どうやら俺達で最後だったみたいだ

いけどね~」正直すぎだぞお前! 「はい皆さんお疲れさん。 なかなか良かったと思うよ。 全部見てな

れじゃ、 「今日は、 さよなら~」 もうこれで解散だから適当に帰ってくれな~。 はい!そ

帰ろうとした時に誠二に捕まってしまった

おい!まもりん約束は果たしてもらうぞ!」

約束ってお前もう下校だから明日な明日」

なら、帰りに何か奢れ~」

. はぁ?お前何言って」

俺は飯食えるためだけに頑張ったんだぞ!その位良いじゃ んかよ

ヮゎ んと一緒に下校しようと思ったのに 分かったって!たく食いもんのためってどんだけだよ」 空さ

所あるじゃん 「どうせなら空ちゃんも一緒に行かない?」 おっ !お前以外に良い

え、私?」

「うん!まもりんの奢りで」そいつは戴けない話だが

「ごめんなさい!私ちょっと用事あるから先に帰らなくちゃいけな

「そっか~。分かったよまた今度行こうぜ~」

「うん、また誘ってね。」残念だが仕方ない。

「空さんまた後で」

「うん、またね~」空さんは走って行ってしまった

「それじゃ、行こうぜ~ まもりん」

「分かってるよ」

わなかった・・ この後コイツの所為であんなに財布が軽くなってしまうなんて思

初授業= 能力 (スキル) 模擬戦 中編 (後書き)

どうも蜜柑です

後はもっとうまく出来るように頑張ります。 バトルが終了しました~。うまく書けなかったかもしれません。 なると思います。 後編は模擬戦後の話に

す。 気が付いた人もいるかもしれませんが、主人公の能力を変えていま

らいかなと思って変更しました。 最初は念動力だったんですけど、 それじゃあ、 すみません あんまり話が進みづ

次回は日曜日までに出したいと思っています。

初授業=能力 (スキル)模擬戦 後編 (前書き)

どうも蜜柑です

誤字とか文が変なところが沢山あるかもしれません。 まずは、遅れてすみません。結構ギリギリになっちゃいました すみません

今回はタイトルと全く関係ない話になるかもです

楽しめたら幸いです

初授業=能力 (スキル)模擬戦 後編

学園都市 中央街 PM3:00

本当ならば、 めになったのだ。 俺と誠二は、今学園都市で最も繁華街が多い中央街に来ている。 既に帰っている時間だが、誠二との約束で飯を奢るは まぁ、 約束したのは俺だから仕方ないか

んだが 「それにしても、まだ着かないのかよ」駅から30分近く歩いてる

「おいしい牛丼屋教えてやるからさ、そんなに焦るなってまもりん

「歩き疲れただけだよ」

あった。 「あ、見えてきたよ~」 ネーミングセンスには触れないでやろう 100mぐらい先に美牛と書かれた看板が

やっと着いたか」

「早く行こうぜ。まもりん」

'分かってるよ」

牛丼屋 美牛

おう、いらっしゃい!」

おっちゃんまた来たよ~」 なんだ?知り合いか

゙ あん?おめぇ誰だ?」

「覚えてないの?!昨日来たばっかでしょ!」

「あ~覚えてるような。無いような」

まり覚えてないだろ 「ひで〜。 昨日、 明日も来るって言ったのに」客の顔なんて、 あん

兎に角、座ろうぜ誠二」

· あ、うん」

「それにしても、あんまり人がいないな」

いんじゃない?」 「まだ他の学校とかは、 まだ授業してる時間だからうちらしかいな

「ここって繁盛してるのか?」

「うん!ここおいしいから」

「本当か~?」人がいないから不安になる

「大丈夫だって。そんなに心配しなくても」

そんで、 何にする」早くしてほしいのか店主が聞いてきた

「俺、牛丼一人前」

そんじゃ、 牛丼特盛りのつゆだく。 あと、 ねぎ多めで!」

「ちょ!おま!容赦ないな!少しは遠慮しろ!」

いいじゃんよ~。 俺がんばったんよ~。 それに約束だもんな」

「くっ!」ひ、卑怯だ!

まぁ、 勝てたのは、まもりんのお陰なんだけどな」

え!いや、そんなことねぇよ!皆頑張ったからだろ」

やっぱり、まもりんのお陰でもある」 「そうかもしれんけど、作戦は、まもりんが考えたんだろ。だから

5 照れるだろうが・・・ うん。まぁ、そうなの・ かな?」 いきなり褒められた

ハイよ。 お待ちどうさん」丁度良い所で牛丼がやってきた。

お きたきた!もう、 腹減りすぎだよ。それじゃ、頂きま~す!

前にあった。 お前の、 でかすぎだろ!」 3~4人分ぐらいの牛丼が誠二の目の

・大丈夫だって~。 この位」

ちゃんと食えよ!俺の金なんだから!」

「分かってるって」

入れた。 「人の金だと思って。 まったく。 」言い終わると、 俺は牛丼を口に

だったと思う。 「な!・ あんなにおいしい牛丼を食べたのわ。 何だこれ!う、うまい!かなり旨い!」 多分初めて

「だろ~!こんなにおいしい牛丼無いよな!」

「ああ!文句なしにうまいぞ!」

ってきた。 「気に入ってくれたかい兄ちゃん達」 おっちゃんが、 嬉しそうに言

「ハイ!とっても美味しいです」

「そうかい。よかったよ」

誠二の牛丼で2000円かかったみたいだった。 計で2500円近くかかった。 と奢らん 食べ終わると店を出て、駅に行った。 ちなみに、 こいつには、 牛丼の料金は合 一度

あそこの、店ってあんなにするんだ・

「うん。 や~ついてたわ」 だから、 今日は行けないかな~って思ってたんだけど、 しし

いつは、 まぁ、 誘わないでおこう 美味しかったから許そう。 今度、空さんを誘う時には、 こ

てるし。 「そいじゃ、まもりん、 またな~」 俺は冬美町 (北側) だから。もう電車も来

あぁ、じゃあなー」さて、俺も帰るかな。

学生寮 PM5:30

ガチャ

入ったが、 寮の中に入ってきて、 隣に居る初めて見る男の人が、 最初にソファー に座っている空さんが目に 一番気になった

あ、お帰り守君」

あぁ、 彼だね」隣に居る男の人が俺の傍に寄って来た

やぁ、こんばんは」

こ、こんばんは」え?誰この人?

゙初めまして、俺は一宮 守です」

しい活躍だったって」 あぁ、 君のことは空君から聞いてるよ。 初めての模擬戦で素晴ら

「え!いや!そんなことは!」

゙ 守君のリーダシップは、凄かったよ!」

そ、空さんまで」なんか、 今日は褒められてばっかだな

君の能力も、凄いんだってね」

はぁ、まぁそうですかね」

優秀な生徒が来て、僕は嬉しいよ」

ちょ !そんなに褒めないで下さいよ」 正直恥ずかしい

「ええ~、どうして?守君本当に凄かったよ」

た。 ヮ゙゙゙゙゙゙゙ ありがとうございます・ つい、 敬語になってしまっ

ですか?」 というか、 理事長って、 入学式の時に居ませんでしたよね?何で

てことにしといたのさ」 あまり長くなると君らもうんざりするだろ。 だから、 また今度っ

なんて、 話の分かる良い人なんだ!

それじゃ、 僕は用事があるから失礼するよ。

ぁੑ 理事長。 また後で来られるんですよね?」

った うん、 また後で来るよ。それじゃ」そう言って、 理事長は出て行

後で何かあるの?」

うん。 部活のミーティングみたいなのを」

 \neg

ふ~ん

あ、そうだ。 誠二君と出かけたんでしょ、どうだったの?」

お金が、 かなり減ったよ・

あははは~。 そっかー。 災難だったね」

全くだよ~」

来た 空さんとソファに座って話していると、 もう一人の寮生が帰って

あ 先 輩。 おかえりなさい」

先輩?」そう言えば、 先輩が居るようなこと言ってたっけ

あぁ、 ただいま」女の人だった。 しかも、 結構美人だった

先輩、朝話した新しい寮生です」

いるところだ」 君か、 話は聞いてるよ。 災難だったな。 こちらも急いで手配して

゙ ありがとうございます。えっと」

あぁ、 すまない。 私は白鷺 真 理 だ。 よろしく」

はい。 宜しくお願いします」 なんか、 さっきの人より大人な感じだ

って!白鷺!?まさか、 白鷺財閥のお方ですか?」

「あぁ、そうだが」

なのか? 白鷺財閥の力で作り上げられた。 白鷺財閥とは、 超能力の開発をした財閥なのだ。 この人は、 そんな大層な財閥の人 この学園都市も

あまり、 気を使わないでいい。 普通にしてくれ」

に話すのって結構無理がないか。 はい。 分かりました」 普通って言っても、 この人と普通

そういえば、一之瀬、理事長は来られたか?」

るそうです」 はい でも用事があるのでって、 帰られました。 後でまた来

「そうか、分かった。」

「それでは、私は上で待つとしよう。

「私も後で向かいます」

. 分かった」

そう言って、先輩は上の階に上がって行った。

「この寮ってある意味凄いよね」

いよね」 「え?そうかな?まぁ、確かに寮って、こんなホテルみたいじゃな

そこもだか、 他に一番すごいのがあるでしょうよ空さん

「それじゃ、私自分の部屋に戻るね」

「あ、分かった」

「それじゃ、おやすみ守君」

「うん、おやすみ」

学生寮 5 F PM11:40

ガチャ

いや~、 白鷺君遅れてすまない。 」息を荒立てながら入って来た

あ、先輩来られましたよ」

「構いませんよ理事長」

あれ?二人だけかい?二階堂君は?」 周りを見渡しながら言った

二階堂先輩は、出かけましたよ」

「あぁ、そろそろだしね」

全く、二階堂には言っといたはずなんだが」

まぁまぁ、 良いじゃないか。 やる気になってくれてるんだし。

そうですけど」

それに、今は、彼の方だ。」

はい、 一之瀬の話によると、どうやら彼にもあるみたいです」

いせ、 でも、 私の間違いかもしれませんし・

彼が適応者なのか」 「それでもいいよ。 もうすぐ時間だし、 その時はっきりするだうさ。

守君」

時刻は0時になろうとしていた。

学生寮 2F 守の部屋 PM???

間ではない場所に移動していた。 守は普通に眠っている。 しかしこの時、 守は寝ながらも普通の空

学生寮 5F PM???

やはり、彼にもあったみたいだね」

その様ですね。理事長」

でも、 普通なら暴走を起こすんじゃないんですか?」

? だ。 「普通ならそうだけど、 もしかすると、どこか君たちと違う力があるんじゃない 彼は見ての通り暴走する気配がないみたい のかな

私たちと違う力・・・」

兎に角、 今後の様子を見てから決めようじゃないか。

「一之瀬。もし彼の身に何かあったら頼むぞ」

はぁ、 分かりました」 困った顔をしながら言った

よ。一之瀬君」 「そうそう起こるものじゃないから、そんなに気を張らなくていい

た 3人はモニターに映る守を見守りながら、この時間が過ぎて行っ

61

初授業=能力 (スキル)模擬戦 後編 (後書き)

どうも蜜柑です。

なんだかペルソナ3になって来ちゃいました。 P3にならないように超能力者どうしの戦いを増やしていきたいで

悪役?的なのは、まだもう少し先かもしれません

意外な敵 (前書き)

どうも蜜柑です。

すみません。 最近ネタ切れで、出すのが遅くなってます。

やっと物語に入れそうです。

日付と曜日は、最初の文と変わる時に出します。 今回から日付と曜日をつけようかと思います。

意外な敵

学生寮 AM7:00 4月7日 金曜日

ピピピピピピ

入学してから二日目の朝。 守は、目を覚ました。

んあ、 朝?」ベットから起き上がり、登校の準備をした。

に寝たのにな」部屋のドアを開けて下に降りた。 「なんか、今日も、 あんまり疲れが落ちてないような?昨日も早め

俺も早く行こ」 寮の扉を開けて学園に向かった 「誰もいないか。空さんもう行っちゃったのかな?まぁ、 いいか。

1年F組教室内 AM8:00

うぃーす。まもりん_」

おはよ守君」

· あ、おはよ~」

空さん、今日早いんだね。」

「うん、今日は部活の朝練があったから。

部活ってあの寮の?」そういえば、 どんな部活なんだ?

「あ、私ね部活を掛け持ちしてるの。」

そうなんだ。どんな部活?」

·薙刀部だよ」薙刀部?そんなのあるんだ。

薙刀部に入ったんだ空ちゃん。 かっこいいよね~」

ラーな部活なの? 「うん!私も憧れて入ったんだ」え、 なに?この学校では、 ポピュ

ガラガラガラ

教室のドアが開いて先生が入って来た。

たみたいだな 「お前ら席につけ~。 ホームルー ム始めるぞ~」 今日は遅れなかっ

ホ | ムルームて言っても、 俺からの連絡しかないけどな~」

授業は、 三は、 能力と体育専門だそうな。てか、あいつに務まるのか?ら、外と変わらず能力系以外は、普通の授業なのだ。因みに睡ら、外と変わらず能力系以外は、普通の授業なのだ。因みに睡ら、外との後、授業に入った。

んら問題はなく最後の授業まで出来た。 実際、 普通の授業をやるのは、 この学園では初めてだったが、 な

1年F組 教室内 PM 4:30

キーンコーンカーンコーン

た。 授業終了のチャイムだ。外と何にも変わらな過ぎて少し退屈だっ

「まもりー hί 一緒に帰ろうぜ~」 誠二が俺の傍までやって来た

「奢らねーぞ」

いやいや、一緒に帰るだけだから!」

「空ちゃんは?」

「ごめんね、今日も部活があるから無理っぽい」

「そっか。じゃあ、行くか。まもりん」

あ、 ああ。それじゃ空さん先に帰ってるね」空さん大変そうだな

「うん、また後でね」

学生寮 1F ロビー AM6:00

ガチャ

一宮か。おかえり」

「あ、はい。」

寮に居たのは白鷺先輩だけのようだ。 折角だし何か話そうかな

あの、白鷺先輩」

「ん?なんだ」

この寮って、 俺と空さんと先輩しかいないんですか?」

いせ、 他にまだ一人居る。 名前は二階堂 真琴という名前だ ᆫ

ヘー、そんなんですか。でも、見ませんね」

「あぁ あいつは、 部活中だからな」空さんと同じ部の掛け持ちか

な?

「そうなんですか。_.

「あぁ

「・・・・・・・」

ができない !向こうから話を続ける気配すらないよ! ゕੑ 会話が続かねー!言葉のキャッチボール

それじゃ あ、 俺上行きますね。 おやすみなさ」

あぁ、おやすみ」

やっぱり、 いきなり話しかけられたら変に思うよな。

一宫」

「あ、はい」

「その、体は何ともないか?」

?はぁ、まぁ、何ともないですね」

「そうか。 呼び止めてすまない。 ゆっくり休むといい」

は はい」どうして急にそんなこと聞いたんだ?

学生寮 5F PM???

今日も、何も起こらず寝たままか」

その様ですね。理事長」

あ、 あの、もうこんなことやめて守君に話しませんか?」

ましてや、 の特別な力がある。 「そうしたいのも山々だが、なんて話す?あなたには、 盗撮してるなんて言えないだろ」 と、言っても、そうそう信じてもらえないだろ。 能力とは別

そうですけど」

まぁ、 そんなに焦ることないよ。 いずれ話す時が来るだろうし」

「いずれですか・・・」

「そういえば、今日も二階堂君は来てないみたいだね」

はい、申し訳ありません」

「いいよ別に謝らなくて」

עעעעעעע 部屋にある通信機から着信音が鳴った

「どうした?真琴か?」

倒せない!今そっちに向かってる) (今、かなりでかいやつに追われている!すまないが、 俺一人では

「え!ちょっと先輩、 あいつら連れて、ここに来るんですか!」

「やむを得ないだろ。 一之瀬、 一宮を出来るだけ遠くに逃がしてく

「そんな!先輩たちはどうするんですか!?」

私たちは、奴等と戦う。 一之瀬も間に合ったら来てくれ!」

は、はい分かりました」

理事長はここに居てください」

わ、分かったよ」

(おい!もう着くぞ!早くしろ!)

「分かっている!」

学生寮 2F 守の部屋 PM???

外で非常事態が起こっているのにも関わらず、守は眠っていた

ドン! 何かが起き、 建物が揺れ、 守がベットから落ちた

わ!わわ!な、なんだ!地震!」

「守君大丈夫?!ごめん、入るよ!」

「そ、空さん。どうしたの?地震でも起きたの?」

兎に角、ここから今すぐ逃げて!」 に 逃げる?

・逃げて?何処に?てか、なんで?」

「兎に角ー緒に付いてきて!」

「う、うん」なんでそんなに焦ってるんだ?

ンドガンを渡してきた いちよう、これ持っていて」そう言って、 映画などでよく見る八

ちょ!なにこれ!」空さん、何かの冗談か?

「いいから、行くよ!」

学生寮 1 F ロビー 裏口 PM???

「ここから、外に出よ!」

「わかった!」

(一之瀬、聞こえるか?!)

「先輩!どうしました?!」

「え?なに?先輩?」空さん能力使ってるのかな?

態の適性者らしい) (すまない!本体が逃げてしまった!それと、どうやら敵は暴走状

「え!そうなんですか?!

(あぁ、それと、今、 敵が何処に居るか分かるか)

「えっと、今は・・・・」

ドン!!非常口の扉が激しくへこんだ。

「え?」」なんだ、今何が起きた?

(おい!どうした?今、 敵はどこに居るんだ?!)

'い'、今、私たちの目の前に居ます・・・」

(な!今すぐ、そこから、逃げろ!)

「は、はい!!」

いた 「空さん!どうしたらいい!」俺も意味が分からず焦りだしてきて

、と、兎に角、逃げなくちゃ!」

'逃げるって何処に?!」

う、上に上に逃げましょう!」

学生寮 屋上 PM???

「ハァハァ、疲れた」

「多分もう大丈夫だから」

(大丈夫か二人とも?敵は、 1階には居なかったぞ)

神を集中させた直後 「え!ホントですか?じゃあ、 今どこに?」空さんが目を閉じて精

ドン!と、後ろから大きい物音がした。

「まさか!」俺と空さんは振り返った。

けたような、 そこには、 巨人が目の前に現れた。 映画でしか見たことのない、 色々な岩や鉄骨をくっつ

゙な!なんなんだよ!あれ!」

「あれが、ここを襲ってきた敵。神使」

· しん・・・し・・・?」

次の瞬間、巨人が大きな岩を投げてきた。

うわぁ!!」

゙きゃあ!」

岩は、外れたが後ろの扉が塞がれてしまった。

「これじゃ、中に逃げれない!」

ないものが目に入った。 その怪物がゆっくりと俺たちに近づいてきた。 そして、信じられ

誠・・・||・・?|

も驚いていた 巨人の丁度胸の真ん中に誠二が埋まっていた。 これには、 空さん

なんで・・・・誠二君が」

おい!誠二!大丈夫か!」 何度声を掛けても反応がない

「まさか!死んでるんじゃ!」

誠二君が死んじゃったら、 多分大丈夫。 あれは、 誠二君の能力から生み出された怪物だから、 あの怪物も、 消えちゃうはずだから」

「じゃあ、誠二はまだ生きてる!」

う前に助けないと、 「うん!でも、 時間の問題かも。 誠二君が死んじゃう」 誠二君が、 あの怪物と同化しちゃ

助けるってどうやって!」

能力で、出来てるから、 「あの怪物から引き離せば、 崩れると思う!」 誠二君事態が離れると、 助けれるかも。 元々、 体を維持できない あれは誠二君の

きそうな奴を・・・・ なるほど。 でもどうやって、離す近づいただけでも殴りかかって

だ ないかも」空さんも、どうしたらいいか分からない、 「でも、 私のもう一つの能力でも、 あの体なら足止め程度しかでき といった感じ

あい つの体は能力で作られている、 だとすれば

ない 一か八かやってみるしかない!」 これくらい しか作戦が思い

え、守君どうしたの?」

「空さん、俺の作戦聞いてくれる?」

「作戦?」

数秒唖然としてた 力を吸収して、あの巨人の体から誠二を引き剥がす!」空さんは、 いつを少しの間足止めしていてほしい。その間に、 うん。 まずは、 俺があいつの傍まで行きますから、 俺が、誠二の能 空さんは、 あ

でもどうやって!?」

ると思う」 って、誠二の周りの岩や土を崩して、その隙に、 俺は、まだ、 「多分、あいつの体は岩や土で、出来ているから、 誠二の能力に慣れてなくても、それくらいなら、 あいつを引き出す。 誠二の能力を使 出来

でも、失敗したら!

んだ!」 今は、 失敗なんて考えてる場合じゃない!誠二の命がかかってる

「そ、 いてられない」 そうよね!今は誠二君の命が掛ってるものね!弱音なんて吐

・作戦開始だ!」 俺は、 走って巨人に近付いった

グオオオオオオオオオオオオオオ**オ**オ

ことはすぐに分かった。 たってことも今の状況も信じられない。 ものすごい轟音。 響き渡る不気味な声。 だけど、 あれが、 これが現実だって 誠二の生み出し

巨人が自分の腕を勢いよく振り、 その腕から石が飛んできた。

がっ 近距離で石が頭部に命中し、 血が出てきた。

この痛みは夢なんかじゃない。現実だ。

「守君!!」

大丈夫だから!空さんは足止めをしてくれ!」

分かった!」深く深呼吸をし、手を巨人に向けた。

にくっついて、よつんばいの格好になった 青い閃光が巨人の足と腕を包んだ。 すると、 巨人の足と腕が地面

今だよ!守君」巨人は何とか動こうと必死になっている。

だ。 「うおおおお 透かさず巨人の下に潜り込んみ、 誠二をつかん

周りの岩や土を崩した 後は、 誠二の周りを崩すだけだ。 俺は巨人の体に手をやり誠二の

た。 !今だ!」 誠二を思いいきり引っ張り出し、 横に吹っ飛ばし

やった!成功だ!と、俺が安心した直後

「守君!危ない!」

「え?」気が付いた時には、もう遅かった。

巨人の体が崩れだし始め。 俺に、巨人の瓦礫が落ちてきた。

うわぁぁぁーーー !!!」

俺は死ぬのか?

こんなところで?

まだ、高校生なのに・・・・畜生。

意外な敵(後書き)

どうも蜜柑です

そういえば、ハンドガンの件、出しただけ無駄でしたね 今回、中途半端なところで終ってしまいました。 すみません

楽しんで頂けたら幸いです。 次回は、土曜日までには、出したいと思います。

狭間世界 (前書き)

どうも蜜柑です

らっと詳しいことは、後々話します。でも、新キャラは登場させました!今回は、別に話と関係ないかもしれません

狭間世界

学園都市 中央病院 A M 1 : 2 0 4月13日 水曜日

· う・・ん・・・ここは?・・」

しないが、 俺は、 ベットに横たわっていた、 どうやら助かったみたいだ。 眠っ ていたのか意識がはっきり

「おう、気が付いたか~?」

「え?」

りにあまり見たくない奴がいた。 俺の隣で、 聞き覚えある男の声が聞こえた。そこには、 病み上が

せんせい?」そこに居たのは、 俺の担任の睡三だった。

お前も災難だな~。 入学早々、 病院の厄介になるなんて」

無事なんだ? そうか、 俺、 やっぱりあの時下敷きになったのか。でも、 なんで

「どうして俺」

あの場に居た誠二に、感謝するんだな~。」

誠二に?」

絶したみたいだけどな。 みたいだぞ。 「あぁ、 一之瀬の話だと、 誠二も精神が限界だったみたいで、 お前に落ちてきた鉄骨を、 助けたら直ぐに気 能力で助けた

「それで、誠二は大丈夫なんですか?」

゙お前より、重症じゃないから大丈夫だぞ。」

「そうですか、安心しました」

はもう学校休め」 「俺は、 もう行くから、 お前は、 もう寝ろ。それと、 念のため今週

はい。分かりました。」

俺も、いつの間にか眠りについていたそう言い残すと、睡三は病室を出て行った。

学生寮 1 F PM 6:00 4月16日 土曜日

ガチャ

あ、守君。おかえり」

「あ、空さん。ただいま」

来た。 あれから三日、 特に何も起こらないで退院し、 令 学生寮に帰って

二日も見舞いに来てくれて、ありがと」

俺が入院している時に、 くれていた。 学校が終わったら空さんが、 見舞いに来て

てもらって、 「ううん、 私がちゃんとしなくちゃいけなかったのに、 ほんと私ってどうしようもないね・ • 守君に守っ

っていた。 空さんは、 俯き、空さんが今まで出したことのない悲しい声で喋

そんなことないよ」 俺は、 そんな空さんは見たくなかった

「・・・・うん、ありがと」

返事をすればよかったのだろう。 それでも空さんは、 顔を俯かせたままだった。 この時、 俺はなんて

「あ、あのね、後で寮の5階に来てくれる?」

俺の気を察したのか、 空さんは顔を上げいつも通りに話してきた。

「別にいいけど、どうして?」

あの日、 起こったことをちゃんと説明しなくちゃ いけないし」

それは俺も気になっていたか断る理由などない。

「誠二君も後で来るから、その時一緒に来てね」

・誠二が?」

うん。誠二君にも説明してあげないと」

「分かった」

それじゃ。 と、言って空さんは上にあがって行った。

学生寮 1 F PM 8:00

ガチャ

寮の扉が開き、誠二が入って来た

「よーっす、まもりん。大丈夫だったか?」

誠二はいつも通り明るかった。というより、うるさかった

だよ」 「おお、 誠二。久しぶりだな。俺は大丈夫だが、お前は、どうなん

「俺は、あの位、どーってことねーよ」

仁王立ちしながら自慢げに話してきた。

「そうか、よかった。それと、ありがとな」

て来た なにが?~」誠二は何の事か分からない。 みたいな、 態度をとっ

お前が、 助けてくれなかったら、 俺は死んでたかもしれない」

とまでは、 「あぁ〜、 覚えてるんだけどな」 俺その時のこと覚えてないんだよ。 お前に助けられたこ

「そうなのか?」

「うん。多分無意識だったんかな?」

「まぁ、とりあえず、ありがとな」

俺が、そういうと、誠二は笑って返してきた

「お互いにな」

こいつは、ホントに良いやつなんだな。

「とりあえず、 上に行こう。空さんも待ってるだろうし」

「はいよ」

学生寮 5 F PM8:05

ガチャ

部屋には、 スーツを着た女性の人がいた 空さん、 白鷺先輩、 理事長と、その隣にいる、 男の人と

言った 「来たか。 そこに座ってくれ」 先輩が目の前のソファー を指さして

· あ、はい」

ソファ ないことに気が付いた。 ーに着き、 改めて周りを見てみて、 この部屋が普通部屋じゃ

. この部屋って何なんですか?」

「まぁ、作戦室と、言ったところだろ」

「はあ・・・・」

説明する。 「そんなことはどうでもいい、 聞く準備はいいか?」 令 君たちに、 あの日起きたことを

先輩の顔が真剣な顔つきになった。

多分重大な話なのだろう

にに

「そうか、では話そう」

次の瞬間先輩の口から信じられない真実が告げられた

そして、その力で、 「単刀直入に言う、 君たちは能力とは別の特別な力に目覚めたのだ。 我々と共に戦ってほしい」

「は?」」

俺と誠二は同時に声が出た

隣の男の人が言った。 話を端折りすぎだ。 もっと詳しく話してやれ真理」 Ļ 理事長の

そうだな、 すまない。 そうだな何から話そうか」

んですか?」 あの、 あの時俺に何が起こったんですか?てか、 あの空間は何な

誠二が自分に起きたことを、 確かめたいために聞いた

「そうだな、そこから話そう。」

間置いて話してきた

あの時、 君は力が覚醒して軽い暴走が起きたんだ」

暴走?」

だ 覚醒した時は必ず暴走を、 「そう、 君はあの日、 あの世界に入る力が着いたのだ。 起こすのでな、 それは仕方ないことなの 最 も、

でも、俺は何にもなりませんでしたよ」

そう、 は も暴走が起こってもいいはずだ。 俺にも力があるということなのではないだろうか?なら、 俺はあの時、 誠一を助ける時、 確かにあの世界に居た。 俺に それ

それも、 すまないが、 私たちと違った力だ」 私にも分からない。 だが、 君にも力はあるはずだ。

「違う力・・・・」

分からない」 そう、 唯 あの世界に抵抗した力。 それが、 どんな物なのかは、

「そう・・・・ですか」

俺が納得したのを見て、 誠二が次の質問に映った

には、 「その、 気づかれないんですか?」 先輩たちが言う「あの世界」って何なんですか?なんで皆

確かに、 ころかニュースにもなってないなんて。 普通なら皆気づいてる筈の騒ぎだったはずなのに、 騒動ど

と呼んでいる」 あの世界は、 現実と夢幻の狭間の世界。 私たちは、 「狭間世界」

「狭間世界?」.

分けが分からなくなってきたぞ。 現実と夢幻?狭間?何だそれ?

されない」 か訪れない世界。 狭間世界は、 毎日0時に訪れる世界。 そして、 狭間世界で起きたことは、 そして、 力に目覚めた者し 現実には影響

先輩があとづけた それなら、 放っておいてもいいんじゃないか?と、 思っていたら、

「ただし、人は例外だ」

え?・・・・ひ、人?」

食われるのだ。あの世界の住人に」

「住人って・・・てか、食われる!?」

に 「あぁ、 そのまま、 稀に、 奴らの餌食だ」 狭間世界に行っ てしまう者が居るのだ。 力がない故

· その住人は一体何なんですか?!」

誠二が驚きを隠せずに言った

神使と言った化物だ。 で生まれるのだ」 奴等は私たち能力者が出しているエネルギ

.!

を襲った化け物を思い出した 俺は思い出した。 あの時、 誠二に着いていた化物を。 俺や空さん

そんなことがあったら、 大騒ぎじゃないですか!!」

誠二は焦っているようだ。 るだろう 無理もない普通の人間なら同じ反応を取

力を奪われてしまい、 神使は、 獲物の精神と能力を食らう。 廃人になり姿を消してしまう」 食われた人間は、 精神と能

そんな!助けられないんですか!!」

食われた際に、 その神使を倒せば、 その人間は元に戻る」

、よ、よかった~」

誠二は安心したそうだ。 確かに助けられるなら絶望的じゃないはずだ

·そこで、君たちに頼みたいこと」

「「頼みたいこと?」」

我々と共に学園都市を、 いせ、 世界を救ってほしい」

「世界を・・・」「救う・・・?」

しいのだ。 人が襲われ、 「そうだ。 それに、これは自分も命がけなのだからな」 今すぐに返事をしろと言わない、落ち着いてからでもい 狭間世界で唯一我々が戦える存在なのだ、 必ず被害が出る。その対抗のために、我々と戦ってほ 放っておけば

だ、 俺と誠二は顔を見合わせた、多分考えてることは同じだろう。 かんだで、こいつとは息がぴったりだからな。 なん

まもりん!」 やります。 俺達しかできないのなら、 やるしかないだろ!な

そうだな・・・・。俺も、やります」

二人の即答に周りの人たちが呆気にとられていた。

いいのか?そんなに早く決めてしまって」先輩が確認してきた

に俺らに話してきた そうだよ。 守君も誠二君もよく考えて」空さんも、 心配そう

それでも、 俺の答えは変わらない

考えた結果がこうなんだ。 俺たちも戦うよ」

俺が言うと誠二も答えた

てどうすんのよ!ってな」 「そうそう。それに、空ちゃ んも戦ってるんでしょ?俺たちが逃げ

俺たちの答えを聞いて理事長が話してきた

かったじゃないか。 なんて失礼じゃないかな」 「いや~、頼もしい限りだね!一之瀬君も同級生の仲間が増えてよ それに、 こんなにやる気を出してるのに、 断る

それは そうですけど」

本当に良いんだな?」 先輩が再度確認してきた

もちろんす!」

そうか、 すまないな」 先輩は微笑みながらお礼を言って来た

なら、メンバーを紹介しておくか」

「メンバー?」

「そう、部活のメンバーだ。」

めの手掛かりを捜してもらってる。 「まずは、 ここの、 顧問の理事長だ。 理事長は、 あの世界を消すた

とづけた 「もっともまだ、 何もわかっていないがね」そう言って理事長があ

一之瀬と私については、 別に説明しなくてもいいな」

「あ、はい」

の3年生だ」 「そして、そこに居るのが、ここの住居人。 一階 堂 真琴能適学園

二階堂 真琴だ。宜しく」

無愛想?な人みたいだ。

「あ、はい。宜しくお願いします」

そしてこちらの方が、 中央警察庁の警部の秋葉 楓さんだ」

「宜しくお願いします」

綺麗な人だ。 名前の通り秋が似合う人で、 とっても清楚がある感じ

警察の人って・ さっきの話、 警察は知っているんですか

はい、一部のお方のみが、知られています」

それなら、警察は何にも対策を取らないんですか?」

ちがいる可能性があるので、 大混乱です。 「そうしたいのですが、 あの世界は、 あの世界ことを言ってしまうと、 悪用にも使えますから。そういった人た 情報公開はやっておりません」 世界中は

でも、 警察の人でもこの世界で戦える人はいるんですよね

は して、 ます。 私もそうなんですが、 現実の武器はあまり効かないんです」 その薬が合わない人や効果が早く切れてしまう人が出てきま 今では薬に適用できる人しかいないのです。それに、 私たち大人は、 薬であの世界に干渉してい 神使に

警察も対抗策が見つからないのか

そうなんですか。 すみませんでした」

「いえ、不甲斐ないのは、私たちですから」

楓さんとの話が終わると、先輩が話を続けた

ょ まぁ、 仕方のないこと何ので、 楓さんたちの所為ではありません

· ありがとうございます」

この位だろ。 今日はもう遅い寝てゆっくり休むといい」

はい、分かりました」

学生寮 2 F 廊下 PM10:00

どうやら、 このまま、 誠に、 この寮で暮らすことになったようだ。 この寮に引っ越すことになったようで、 俺も、

ても無かったぞ」 「いや〜、 まさか、 自分がこんなことに巻き込まれるなんて、 思っ

誠二が興奮気味に話しかけてきた

確かにな、普通は信じられないな」

でも、 世界の運命が掛ってるならやるっきゃないっしょ!

「そうだな」

妙にハイテンションの誠二の相手は、 疲れるんだよな。

「なんだよ~。テンション低いぞ!」

「悪い、俺眠いんだ。」

眠いって病院で沢山寝てただろうが」

「あぁ、でも眠い」

「はぁ~。まぁ、兎に角、改めて宜しくな。まもりん!」

「あぁ、宜しく誠二」

とりあえず、騒がしい毎日になることは、確かだな。

狭間世界 (後書き)

どうも蜜柑です

新しく出てきた楓さん、これからも、活躍してもらう?かも

ます 話の続きではありませんが、次回は、 キャラ紹介?をしたいと思い

ます

キャラの能力などを紹介します。こちらは、多分早く出せると思い

話の続きは少し遅くなると思います。 すみません

キャラ紹介 1 (前書き)

どうも蜜柑です

なるべく細かくしたみようかと思います 今回は、キャラ紹介です

キャラの能力が、気に食わなかったら、すみません。

良い能力が、思いつきませんでした。

話の続きはまだかかりそうです。今週中に出します。すみません

一宮 守 まもる

身長174cm 体重 60kg 15歳

この物語の主人公。能適学園1年生

容姿は、 上の中よりちょっとした 髪型は前髪カー ルストレー

長さは、普通な感じ?

嫌いな食べもは、特になし。基本何でも食う

勉強は、出来なくはない、いちよう名門校だから。成績は中の上。

運動は出来る方

リーダーシップがあり、狭間世界では皆と違った力を持っている。

両親は、母親が自分を産んでから他界。 父は海外出勤で中学の時

は親戚に預かってもらっていた。

能力は、能力吸収。レベルはアスキル

ただし、 相手や能力に触りさえすれば、 能力吸収は1つだけ。 その能力を使えるようになる。 しかも、 30分すれば無くなる。

吸収している際に別の能力を吸収できない。

一之瀬空

身長165cm 体重 44kg 15歳

この物語のヒロインのうちの1人。 能適学園1年生

容姿は、上の上で、 スタイルもいい。

髪型はストレートロングの黒髪。 肩に少しかかるくらいの長さ

بخ 嫌いな食べ物は、 辛いもの。好きなのは、 甘いもの (ケーキ類な

くとひどく落ち込む お化けなど怖い話が苦手。基本明るいが、 自分のせいで人が傷つ

動もできる 勉強は、 かなりできる。 成績は上の上。 薙刀部に入っており、 運

ていた。 両親は、 父母が他界。 小学6年まで、 祖母の家で預かってもらっ

中学から学園都市に住むことになった。

能スキル 力ル 千里眼と発電能力の二重能力レベデュアルスキル 、ルは9

検索できない時もある。 千里眼は基本的、 敵を見分けるのに使う。 が、 有効範囲が狭くて、

仲間の場合、 神使はエネルギー(能力)と精神の塊なのですぐに見分けがつく。 一度会ったことある人でないと検索ができない。

狭間世界では、薙刀を使用している。

電磁波でくっつけることもできる。 発電能力は、最大1億ボルトを出せるくらいの能力。 金属同士を

(1kmくらい) 千里眼と合わせて、 少し遠くの敵に電撃を落とすこともできる。

戦っている。 力が覚醒したのは、 中学2年の時で、 その時から、 狭間の世界で、

東海林 誠二

身長は178cm 体重は66kg 15歳

守の友達で、これから共に、 狭間世界で戦う仲間 能適学園1年生

嫌いな食べ物は、 納豆 好きな食べ物は、 美牛の牛丼

め 普段は出来るのに、 勉強は出来る方。 成績はそんなに高くない だが、テストなどが大の苦手。 なぜかテストになるとダメになってしまうた

ている 実はかなりのボンボンで、 家も凄い豪邸。 でも、そのことを隠し

まう。 とても友達想いで、 優しいやつ。 よくチャラ男と勘違いされてし

能力 地質操作 レベルは7

するため、 を詳しくしいとうまく出来ない。 岩・鉱物から、武器などを作れることもある。その場合イメージ しかし、 泥 岩、 何回も、できない 誠二の場合、 鉱物などの物質を自在に操ることができる 腹が減っているとうまく使えないそうだ。 そして、精神力を激しく消耗

白鷺 真理

身長172cm 体重47kg 17歳

守たちの先輩で、 白鷺財閥のお嬢様 能適学園3年生

容姿は上の上で、 空とは別に、 大人な感じが出ている美人系

嫌いな食べ物は、 特になし 好きな食べ物も、 特にない

狭間世界では、刀等の武器を使用している勉強と成績は、3年連続学年トップ。

界を消すために世界各国を回っていて、 けだったそうだ。 しかし、 家柄・才能等に恵まれて生まれてきた子供 両親とは幼稚の時にしか会ってなく、 常に家では執事とメイドだ 両親ともに狭間世

能スキル **力**ル 風の操作 レベル9

また、 その気になれば強力な、 風を自在に操れることができる。 うまく操作をすれば、 かまいたちを起こせる。 空もある程度飛べる

一階堂 真まこ**琴**と

身長181 c m 体重70kg 17歳

同じく守達の先輩。 能適学園3年生

好きなもの 自分より強い奴 妹 嫌いなもの 油っこいもの

動性能は抜群。 部活はやってないが、 成績も優秀で上位の方。 学校外で、 記憶力がとても優れている ほぼ全ての武道をやっており運

基本、 狭間世界ではあらゆる武器を全て使用している。

時に別居することになった。 とになったが、 なっていたが兄が学園都市に入ると、 両親は、 幼い時に他界。 妹が特中に入学することに決まり、 親戚のもとで、三つ下の妹と、 ともに、 妹と一緒に暮らすこ 中学に入ると同 お世話に

能 力 ル 物質の具現化能力

19	かし、時間が経つと消滅してしまう。	器や剣・槍・爆弾等の武器を具現化させ狭間世界で戦っている	だし、生ある者や現実に存在しないものなどは無理	「分が思い浮かんだものを生み出せることができる。
----	-------------------	------------------------------	-------------------------	--------------------------

	銃器や剣・槍・爆弾等の武器を具現化させ狭間世界で戦っている	ただし、生ある者や現実に存在しないものなどは無理	自分が思い浮かんだものを生み出せることができる。
とは違い本格的な武器の創造なので、	とし、	とは違い本格的な武器の創造なので、し、時間が経つと消滅してしまう。や剣・槍・爆弾等の武器を具現化させ	とは 遺い も も も も も も も も も も も も も も も も も も

石い 神 が み 重じゅうご **吾**ご

身長170cm 体重64kg 4 5 歳

能力適用学園の理事長

ちらに回されてしまった。 昔は、 守達の学園の理事長で、狭間世界を消すためにの研究者。 超能力開発と研究をやっていたが、 狭間世界の出現で、そ

能力なし

岡^{おかざき} 睡りみ

身長185cm 体重70kg 2 6 歳

守
•
空
•
誠
$\overline{\Phi}$
のク
\leq
フ
ᄉ
担任
任
\bigcirc
男

担当授業は、 いつも眠そうにしている。 体育と能力で、趣味は、 ゲームならなんでも

好きなもの ゲーム 嫌いなもの 朝・つまらないゲーム

能力 不明

秋葉 楓

身長175cm 体重50kg 25歳

学園都市中央警察庁の警部

狭間世界のことを知っており、色々と協力してくれる人。

武器や道具を取り寄せてくれる。

換えなくてはならない仕事 狭間世界で守達が、重症したり、 死亡した場合、 別の事件に置き

能力なし

しかし、銃の腕前はプロ

狭間世界

数年前に出現した世界。毎日深夜0時に出現する 神使という化物が存在するし、 人の精神と能力を食らう。

財閥は、 出現した原因は、能力開発にあることは、石神や警察も含め白鷺 知っている。

104

キャラ紹介

どうも蜜柑です

すみません 意外に長くなってしまったかもしれません。

と思います 狭間世界での戦いだけでなく、能力者同士の戦いもやっていきたい

学園都市第5位登場(前書き)

どうも、蜜柑です

新キャラ登場しましたが、中二病臭い名前です

能力とかの案はあるんですが、登場のさせ方が難しいです

学園都市第5位 登場

1年F組教室内 P M 1 2 : 5 0 4月18日 月曜日

する奴、昼寝する奴。 の貴重な時間を消費して昼寝をしているところだ。 今は昼休みだ。 学生にとって最も貴重な時間。 皆色んな事に使っている。 今まさに俺は、そ 飯を食う奴、 話を

Z Z Z Z Z Z Z Z

ガラ

「一宮・・・君て、ここに居る?」

渡し、 いきなり教室に入ってきて、 俺の睡眠を邪魔してきやがった。 そんなことを言いながらあたりを見

「お前が、一宮守?」

先輩だろう。 俺の目の前に突っ立っているのは、 ネクタイの色が違うから、 多分

えっと、そうですけど」

いないはずだが・ 入学して間もない俺が、 先輩に名前を覚えられるようなことはして

睡三から聞いたぜ。 お前、 結構強いんだってな」

ムみたいなやつが へ?睡三先生が?」 あの先生が、 俺のことを話してた?生徒々ゲ

いやそんなことではなく、 そのことと先輩が何の関係があるんだ?

俺と一戦やらないか?」

一戦?って、戦うってことですか?」

「ああ

でも何で、ですか?」

なんで、 態々一年の俺なんかと戦おうってんだ?

いはずだ」 「俺は、 強い相手とやりたいんだ。睡三が言ってんなら、 お前は強

前に先輩が言った 睡三が言ったらなんで強いってわかるんだ?俺がその疑問を問う

あの先生は強いからな。そんな人だから見る目はある」

「強い?!あの先生が!?」

「あぁ。俺は、勝てる気がしないね」

あの睡三が強い?信じられない く!俺は、 唖然とした

それで、 どうなんだ?やるのか?やらないのか?」

信じられない 俺は、 ハッと我に返った。それもそうだ、 あの睡三が強いなんて

「えっと」

俺が、 断る返事を考えていた時に厄介な奴が話に入ってきた。

「ま~も~りん!なんの話してんの?」

ったので入って来たようだ 誠二が食堂から帰って来た。 俺が、先輩と何か話してるみたいだ

、入ってくんな」

ひど!・・・てか、こちらの方は?」

「あ、えっと・・・」

そういえば、名前聞いてないぞ

だ。 「あぁ、すまん。 よろしく」 自己紹介がまだだったな、 俺は、 獅子王 帝でん

獅子王・ · 先輩。 どっかで聞いたことあるような?」

誠二が首をかしげながら考え込んでいる。

. えっと、獅子王先輩」

「帝でいい。獅子王は言い難いだろ」

また今度ってことで」 それじゃ、 帝先輩。 すみませんが、 もうすぐ昼休みも終わるので

先輩には悪いが今わそんな気分じゃないからな。 眠いし

たから大丈夫だ」 「次は睡三の授業だろ。 あいつに、一宮たちを借りるって許可取っ

あの野郎!何許可出してんだ!・ て 俺たち?

一宮・東海林・一之瀬の3人だってよ」

誠二や空さんも?なんでですか?」

がに、 俺としても、 お前と同じチームで、良いチームプレイだからだそうだ。 強いほうがいいからな」

う。 なるほど、 でも 確かに前の授業の時は、 良いチー ムワー クだっ たと思

けど 「誠二はいいとして、 空さんは良いのかな?」 勝手に決めちゃった

. ちょ!俺はいいってどういう意味!?」

どうせ授業受けたくないだろ」

う、ま・・まあな」

となると、空さんだな。何て言おうか

「私もいいよ」

からないが、 後ろを振り向くと空さんが居た。 了解してくれた 話の一部始終を聞いてたのか分

「空さん今から何やるか知ってんの?」

第一体育館に行けだってさ」 「うん、さっき先生に、守君達と模擬戦をやれって言われたからね。

「そうか。よし!俺は先に行ってるからな」

帝先輩は、嬉しそうに教室を出て行った。

ねえ守君今の人って」

帝先輩って言って、俺たちと模擬戦する人」

帝って!もしかして、獅子王 帝さん!?」

空さんが、顔を近づけながら聞いてきた。

「そ、そうだけど。空さん知ってるの?」

あの人って有名なのか?

知ってるも何も、 獅子王 帝さんは学園都市の能力者第5位の人

だよ!レベル10の最強能力者の一人」

そういえば、 そうだよ!まもりんなんでそんな人と戦うの!」

どうやら誠二も思い出したようだ。 もう遅いって感じだけど

しらねよ!!な、なんでそんな人が俺と!!」

力[‡] は、 何なのか確かめよう。 兎に角落ち着こう。 冷静に、 冷静にだ。 まずは、 あの人の能ス

「空さん、あの人の能力て何なの?」

どんな能力か把握すれば、 こちらにも勝機はあるはずだ。

「ごめんなさい、私もよく知らないの」

· そ、そうなんだ。」

19 結構やばいかもな、 能力も分からないんじゃ 作戦の立てようがな

んか。 「なんだよ~まもりん。 前の模擬戦の時みたいに、 そんなの俺達が速攻で片づければいいじゃ 指揮やってくれよ。 まもりん」

誠二は、こういう時に心強い。

そうだな・・・・。お前の言うとおりだ」

確かに、 どんな敵が来たって、 先手必勝!速攻で決めれば勝ち目

はあるはずだな

そうだよ!守君と誠二君が居れば大丈夫だよ!」

空さん・・・・」

まぁ、 俺にかかれば第5位なんて、 ちょろいけどな!」

誠二よ、空気読め・・・

能適学園

第一体育館

体育館に着いて、

最初に出迎えたのは睡三だった。

よ~。お前ら、早かったな」

いって言ってるのが信じられないな のんきな先生だよ全く、 こんな奴が教師もそうだが、 第5位が強

先生、良いんですか?」

「あ?なにが?」

何がって・ • 0 俺達が、 授業を休んで戦うことですよ」

いいって、 良いって。てか、俺も見てみたいし」

なんですかその理由・・・・」

つっても、 お前達が勝つ確率は半々ってとこかな」

機械の操作をしながら睡三言った。

「それって、どういう意味で・・・」

ブゥゥゥゥン

睡三に聞こうとした時に、 丁度準備が整ったみたいだ

よし、いいぞお前ら。入れ」

あ、ハイ」

カプセルに横になろうとした時睡三が言った

「そうそう、相手は帝一人だけだから周りには心配すんなよ」

「え?!」

くなった 睡三が信じられないことを言い終わったと同時に、 目の前が明る

バーチャル世界 中央街

この世界に入る時はホントいきなりなんだな

「ここは・・・・」

前と違う場所。 それも、 学園の中じゃない。 多分中央街だ

お~い守君~」

まもりーん」

少し離れた所から誠二と空さんの声が聞こえてきた

誠二、空さん」

今回は結構早く合流できたな

なんだから」 「まもりん、 今回は案外簡単かもよ~。 なんせ、相手は帝先輩だけ

でも、第5位だし油断しない方がいいよ」

空さんの言うとおりだ。 どんな能力かも分からない状況だ

ひとまず、 作戦を立てよう」

「うん」

「おう」

俺は、 この時レベル10の壁を甘く見ていたのかもしれない

バーチャル世界 中央街のとある場所

帝は守達と大分離れたところに出ていた

「さーて、 楽しい御遊戯(戦い)の始まりだな」

学園都市第5位 登場(後書き)

どうも蜜柑です ちょっと早く終わらせてもらいます。 すみません

次回は、 休み明けか、 水曜日に出そうと思います

すみません 急いで書いたので、誤字やおかしなところがあるかもしれません。

レベル10の壁 (前書き)

どうも蜜柑です

かもです すみません!今回も急いで書いたので、少しおかしなところがある

帝さんの、能力はそのうち詳しく説明します。今回は、少し短めです

レベル10の壁

勝てない 誰もがそう思ってしまう。 物でもない。でも、 まう。それも、 ベル10の壁。 高く、そして厚い壁。 確かにそこにあるってことだけは認識できてし それは、目で確認できる物でも、 だから、誰もレベル10には敵わないし 「越えられない」「壊せない」 手で触れる

バーチャル世界 中央街 裏路地 守一行

先輩の居場所を探り に落とすというせこい作戦に出ていた 前回とは別で早々に合流できた俺達は、 空さんのもう一つの能力で雷を、 空さんの能力を使っ 帝先輩

「空さんどう?」

うん、 近くに帝さんの気配は感じるけど、 何処に居るかは

ないっしょまもりん。 やっぱ、 居場所見つけて、 _ 雷落とすなんてそう簡単に行くもんじ

だろう。 仮に先輩を見つけたとしても、 誠二の言うとおりだ。 簡単に当たってくれる人じゃない

くれ 俺が囮になるから、 そこを誠二と空さんが攻撃して

は?それじゃ、まもりんはどうするんだよ?」

そ、そうだよ。 帝さんに捕まったらやられちゃうかもよ」

「大丈夫」

俺は即答した

なんでだよ!その根拠は?」

「根拠?ないよ?」

(。 。) ポカーン」

誠二よ顔が可笑しいぞ

うなんだ?」 「勝てる可能性が少しでもあるなら、 俺はやる。空さんと誠二はど

二人とも少し考え込んだが、決まったみたいだ

「確かに、やるなら勝ちたいな」

「そうだね。でも、守君いいの?」

んだよ」 「空さんと誠二は攻撃に特化してるからね、 俺が行ったほうがいい

そう・・・でも、気をつけてね」

うん」

「それじゃ、行こうぜ。まもりん」

バーチャル世界 中央街 中央広場

守は、 中央街の中心の広場に居た。 誠二と空は周りに隠れている

「さて、 来るとは思わなかったな」 ここに居れば来ると思ってたけど。まさか、 こんなに早く

数メートル先に人影が見えた。

俺達以外には帝先輩しかいないので、 あれは、 帝先輩だろう

りだした 俺はさっき空さんから吸収した発電能力で、電気の球体を手に作

(まだだ、まだ射程距離に入ってない)

俺は、手に溜めた電気を構えながら帝先輩が来るのを待っていた

少しも戦う仕草を見せなかった 帝先輩はどういう訳かかかってこない、というよりも、

(何考えてんだあのひと?)

図を出した 帝先輩との距離が30メートルぐらいになった時、 俺は攻撃の合

今だ!」 俺は、 思いっきり先輩目掛けて電気塊を飛ばした

飛んできた さらに、 帝の左右の横から誠二の岩石攻撃と空さんの電撃攻撃が

「やった!!勝った!」

る。 確かに避けることも、 ままならない状況だ。 誰でも勝利を確信す

そう、俺でもそうだ

ボッシュ

攻撃の全てが帝にあたろうとした直前、 攻撃が消し飛んでしまった

「「「なっ!!」」」

予想だにしない出来事に三人は驚愕を隠せなかった

ククッ、 悪いな。 お前たちの攻撃は通らないぜ」

無傷。帝は傷一つも、ついてなかった。

クソ!無効能力者か!でも、それなら、 打つ手はある!」

そう、 能力だけが効かないのだなら、 殴って気絶させるまでだ

それは、 守は帝の所まで行こうとしたが、 守だけではなく誠二も空も動けなかった。 動けなかった。

へな、 なんだ。 動けない。 させ、 動いたら殺される)

だった この時、 三人は生命の危機を感じていた。 考えていることも同じ

来ないで! 逃げれない。 殺される。 食われる。 動けない。 誰か助けて。 怖い。

の物とは思えない化物 恐怖のあまり幻覚が、 見えてきた。 とても大きく不気味でこの世

八ア ! 八ア・

三人とも全身から汗が滝のように噴き出してきている。

も絶頂に達していた 帝が近づくにつれ、 化物がはっきりと見えてき、 恐怖感・絶望感

こんな程度なのか・・・?」

帝が、尋ねても耳に入らないという状況だ

な・・・何だこれは・・・!?」

守がやっとの思いで話しかけた

ぉੑ お前は骨がある奴だな。 じゃあ、 勝ったら教えてやるよ」

バタッ バタッ

誠二と空が地面に倒れこんだ。 恐怖のあまり気絶したのだろう

を楽しませてくれよ」 頑張れ、 今回はお前らが全滅しない限り続くからよ。 もっと、 俺

不敵に笑いながら言い放った

「ク・・・ソ・・・・」

守も、意識が遠くなって行った。

バタッ

倒れこんだ守を見ながら帝が、残念そうにため息をついた

睡三の野郎もしかして、見る目落ちたんじゃねーのか?」

[そんなことねーよ]

何処からともなく睡三の声が聞こえてきた。

睡三はバーチャル世界に外からマイクで話しかけていた

おい!もう終わっただろ!早く元に戻せよ!」

〔お前何言っての~?〕

「はあ〜?」

〔後ろ後ろ〕

ガシッ!

ツ

帝は誰かに後ろから強く腕をつかまれた。

振り返るとそこには、守が立っていた

ば、馬鹿な!気絶したはずじゃ!」

ギュリ

掴まれた腕は、より強く握られた

俺の能力も (スキル) 効かない) !」(クソ。 こいつ完全に意識が飛んでいる!これじゃあ、

ということだけで動いている 守はもはや、 自意識で動いていな。 ただ、 帝(敵) を倒す

『・・ブッ・・ド・・・・ベ・・!』

そう呟き、守は拳を思いっきり後ろに引いた

バーチャルでも流石に痛・ 「やめ!!」 (おいおい、 冗談じゃねーぞ。そんな力でやられたら、

ズガアァンッ!!

吹っ飛んで行った 帝の顔面に当たり、 風を切るような音を立てて30 m先まで帝が

クソ な 何なん・ ・だよ・ あいつ は

チーム 守 WIN

るものはいなかった 上空に大きく守達の勝利が示されていた。 しかし、それを見上げ

レベル10の壁 (後書き)

た。 書いている途中詰まりましたが、 個人的に良い流れになってきまし

すみませんもしかしたら、遅れるかもしれません。次回は、日曜日には出したいと思います。これからも、宜しくお願いします!

帝さんは、 何か注文があれば言ってください。できれば、感想も これから登場させるか迷っています。

動き始めた裏(前書き)

どうも蜜柑です

タイトル変えました

遅くなって本当に申し訳ありません!

誤字とかあったらすみません!

今回は成るべく長く書いたつもりです

動き始めた裏

能適学園 理事長室 PM3:20

部屋には、 モニターには、 理事長と睡三の二人が部屋のモニター 帝と守達の戦いの記録映像が映し出されていた。 を眺めていた

やはり、彼には、別の力があるみたいだね」

が立つと消えるものじゃないはず」 「その様ですね。 あいつ (守)の能力吸収は、 普通に吸収して時間

首を捻りながら理事長が答えた

が時間消滅で、 「そう、 吸収能力は他の物を吸収しない限り残り続けるもの、 一個限りとは」 それ

誰も持ち合わせていない能力のはず」 最後に帝を吹っ飛ばした時のあの力。 あれは、 あの場に

分からないね。 けど、 それが彼の能力を弱体化させてると思う」

能力の弱体化?と睡三が聞き返した。

の為、 彼には、 他のを吸収しても直に無くなる」 もう既に何かの能力が吸収されているってことかな。 そ

か受け付けない。 つまり、 他の能力に満杯にされていて、 そして、 既に吸収されている能力の方は、 他の能力を一定の時間し 何故か

消えない」

理事長は黙って頷いた

しれない。 「兎も角、 その時は、 様子を見よう。 頼んだよ睡三君」 もしかしたら、 彼は奴らに狙われるかも

分かりました。 生徒達には奴らの指一本たりとも触れさせません」

「頼もしいよ」

能適学園 保健室 PM4:00

゙ん・・・ここは」

お、気が付いたか」

は病院じゃないってことと、 気が付いた時、 俺は又してもベットに寝かされていた。 隣に居るのが睡三じゃないってことだ。 違ったの

帝先輩・・・」

そうか、 俺、 負けたのか。 何が起こったかも分からないまま

たぜ」 「お前何も覚えて無さそうだから言うけどよ、 お前たちの勝ちだっ

数秒の沈黙。 帝先輩が何を言っているのか、 理解できなかった

はい?」

未だに幻聴が聞こえる 俺は、 呆気にとられた。 どうやら俺は、 耳に後遺症があるらしい。

聞こえなかっ たのか?お前たちの勝ちだぞ。 もっと喜べ」

「か・・・ち・・・?」

どっちが決めてくれたんだ なすすべがなく、そのまま負けたかと思っていた。 分けが分からなくなった。 勝てたんだ!俺じゃないのは確かだ。 気絶する寸前までのことは覚えている。 誠二か?空さんか?

ああ、

お前が俺を吹っ飛ばしてな。

そのまま俺の負けだ」

俺が、 帝先輩を吹っ飛ばした?・ 本格的に耳がヤバイ。 どんな幻聴だっつの!

信じられないようだな。だが事実だ。 この俺も流石に恐怖したな」

だが、 俺の顔を見て察したのだろう聞き直す前に答えてくれた やっぱり信じられない

たし、 そんなのありえないですよ。 第一に俺は気絶したはずじゃ!」 帝先輩には、 俺達の能力が効かなか

「そう、 という衝動、 確かにお前は気絶していた。 それがお前を動かた。 が、 Ļ 俺は思う」 無意識化での俺に勝ちた

無意識化での衝動・・・・」

確かにそれなら辻褄合わなくもない。以前に俺が誠二に助けられた時と同じ現象か?

*まぁ、難しい話はまた今度だ。少し休め」

「あ、はい」

そういえば、誠二と空さんはどうしたんだ?

「あの」

. ん?」

帝先輩は保健室のドアを開けて、出でるところだった

「誠二と空さんは大丈夫なんですか?」

せた」 「あぁ、 あの二人なら大丈夫だ。 遅くなるとあぶねえから先に帰ら

「そうですか。よかった」

大切な仲間なんだな」

小声で帝は呟いた

「え?今何て言ったんですか?」

いや、何でもねえ。じゃーな」

ガラガラ

学生寮 1 F ロビー PM6:00

ガチャ

!まもりん!おかえり~大丈夫だったか?」

「守君、大丈夫だった?」

二人とも心配そうに寄って来た

ありがとう。大丈夫だよ」

まぁ、バーチャルだし傷は負わないからな

いや~なかなか起きなかったから、 心配したぞ」

心配かけて悪かったな」

「ううん、守君が無事でよかったよ」

る筈なんだけど 普段この時間帯なら、 ロビーを見渡して、先輩達が居ないのに気が付いた。 ソファー に座って何かの作業や読書してい

先輩たちは?」

輩は分かんネ」 ん?ああ、 白鷺先輩はさっき用事で、 出て行ったけど、 二階堂先

. 何か用事でもあったの?」

別に用事はなかった。 ただ気になっただけである

て言うか、今思ったんだけど。二階堂先輩ってどんな人なん?」

誠二が、唐突にそんなことを言ってきた。 てか、ホントいきなりだな。少し前の会話が打ち消されたぞ

「え?どんなって、言われても話したことないし。空さんは」

私もあんまり話さないから分からないかな」

意外な答えに、

誠二が空さんに聞き返した。

んも知らんの?」 まもりんなら兎も角、 一年以上寮が同じだった空ちゃ

空さんは、苦笑いしながら答えた

アハハ・・・ごめんね。

確かに、 一年以上も同じ寮ならだったら少しくらいは話すだろう

なんだか、どーうにもミステリアスな先輩だな~」

「何がミステリアスだ。馬鹿かお前?」

というか、馬鹿だな。

真顔で言うな~!」

沈黙が少し続いた

てか、 別に良いんじゃね?気になるんだったら聞けばい

いだろ」

·女子かお前!兎も角何か話せばいいだろ」

そうなんだけど。何て話しかけたらいいかな?」

首を傾げながら考え込んでいる誠二。 何だかとってもどうでもいい

俺もう上行くわ。何だか疲れたから寝る」

・また寝るのかよ!」

間髪いれずに誠二が突っ込んできた。

「あぁ、おやすみ」

ぁ じゃ私も部屋に戻るからじゃあね誠二君。 守君もおやすみ」

ロビー には誠二一 人だけになった

うぉーー ۱) ! ?俺の話しスルーですか!!てか、 人にすんなや

叫んだところで二人とも上に行ってしまっていた

学園都市 西側 早海町 早海港 P M 1 0

まどう複数の黒服達。 暗闇の中、冷たい潮風が吹き荒れている、 コンテナの迷路を逃げ

皆が息を荒立てながら必死に走っていた。

そして、全員の手には、 黒光りする金属の塊が、 握られている

クソーまさか、 待ち伏せさせら手たとは!」

ば終わりだぞ!」 「今はそんなことよりも、 全力で逃げろ!捕まるなんてことがあれ

分かっている!」

数分走り回って、 その黒服たちはある倉庫に逃げ込んだ。

八ア 八ア

Ų ひとまずここに隠れていよう」

あぁ、 そうなだ」

束の間の休息。 彼らにとってどれだけ有り難いものか

黒服の一人が通信機を取り出した

. こちら、詮索部隊。応答してください」

しかし、通信機からは何の音も聞こえない。

クッ・・・駄目か」

他の黒服が焦り気味に訪ねてきた

お、おい!どうするんだよ!」

そんなの俺にも分かるか!」

他の黒服達もどうしてしていいか分からず、段々と苛立ちを見せ

始めた

と、その時、不意に後ろから声が飛んできた。

合って捕まるか、 「じゃあ、 俺たちに大人しく捕まるか、 どっちかだな」 それとも、ここで俺とやり

!!

後ろの声に驚き振り向いた黒服達は更に驚愕した。 そこに立っていたのは、 まだ高校生位の少年だった。

な!こ、子供?!」

驚きを隠せない表情になった

「まさか、お前も、『護り人』か!?」

· それがどうした?」

「こんな子供まで・・・」

俺には、 ちゃ んと適性があるからな、 それに護る物もある。 だか

ら戦う」

黒服の一人が笑って答えた。

悪いが、 我々のも目的がある。子供とて、手加減はしない!」

そう言った途端黒服の全員手に持っていた銃をその少年に構えた

例え能力を使えるとしても、この距離で弾丸が外れるはずがない なぜなら、その少年は戦う武器を持っていなかったからだ。 この時黒服達は、 勝利を確証していた。

武器を持たないで、 のこのこ来るとはな

余裕の笑みを浮かべ黒服達は引き金を引いた

ドォン

誰もが少年の死を確信したいた。 いくつかの銃声が鳴り響いた。 が 弾丸は少年には当たらなか

つ

「なッ!!」

の壁に弾丸が塞がれていてしまっていた。 黒服達の目の前に少年を囲むようには大きな壁が現れていて、 そ

こう側から現れた 壁が消え、 嘲笑いながら多数の武器を所持している少年が囲の向

「ツ!」

黒服達がもう一度撃とうと、引き金を引いたが弾は出なかった

出せる。 「俺は現実に存在する物なら、 お前たちの銃口に物を詰めらせるなんて、 どんな場所でも、 どんな所でも生み たわいもない」

、そ、そんな」

もはや、黒服達に勝ち目はない。

黒服達はその場に崩れ、 唖然としてることしかできなかった

を企んでいるか話してもらをうか?」 「お前らが、 9 k † e y だってことは分かってるからな。 今度は何

もがき始めた。 少年が近づいた途端に黒服達全員が、 いきなり叫び、 地面に倒れ

がぁ あああ ああ !ぐっ ぎいややああぁ

な、何だこれは!」

全身から噴きだしその場に倒れ込んだ。 何が起こったか分からないまま、 黒服達は数秒もがき苦しみ血を

もはや生死を確認するまでもない。

「な、何だ今のは」

全く持って分けが分からない状況だった。

ヒヒヒヒ・・・

少年が唖然としていると、自分の持っている通信機が鳴った

〔そちらはどうなりましたか?〕

「よく分かりませんが、 9 k † e y の連中が・ 死んだ」

溜息混じりに答えが返って来た

[やはり・・・そうですか]

何か知っているんですか?」

す。 おきます。 い。 今日はもう帰ってよろしいですよ。 ですが、 今日はもう遅いので詳しいことはまた後日話しま 後の始末は私たちがやって

「了解しました。それでは」

(はい、ご苦労様です。 二階堂さん。

た黒服達の血に気づき持っていたハンカチで拭い、 少年は地面に倒れこんでいる死体を再度確認し、 その場を後にし さっき顔につい

140

動き始めた裏(後書き)

蜜柑です

最近タイトルが思いつきません。

今回のタイトルも後半のこと指してたし分かりにくかったですよね

もしかして、ややこしくなる予感がしてきました。 もう少し話の展開を早くした方がいいですかね?

でも、出来るだけうまくまとめるように努力します

評価など、お願いします!

異変発生 (前書き)

すみません 急いで書いたのでおかしな部分もたくさんあると思います。 遅くなってすみませんでした

書き方ちょっと変更しました

何もなかったらこのまま続けます もし前の方が良かったら言ってください直します。

異変発生

学園都市 23日の狭間 北西側 寒地町 港付近 狭間世界 4月22日~4月

守・空・誠二サイド

は はっくしゅ!」

守君大丈夫?」

空が心配そうに顔を覗き込んできた

「う、うん。 まぁなんとか。

(あ~。早く終わってほしい)」

悴む手を擦りながら守はそんなことを考えていた

学園都市内で最も寒い町それが寒地町。

真夏でも最高気温20 前後で基準気温7 冬場は -3 0 越え

何て事もある。

そんな秘境の土地に、 部活のメンバーが来ていた。

ことの始まりは、 二日前の異変が原因だった

そして、 て、異変解決のため部活が動いたのだっかが帝に負けた後日から異変は起きていた

5F作戦室

寮

P M 9 : 0 0

数時間前

ガチャ

「失礼します」

部屋には、部活のメンバーが既に居た部屋の扉を開けて入って来たのは秋葉楓だった

皆揃ったね。それじゃ始めようか」

理事長が座っていた椅子から立ち傍にあったリモコンのスイッチを

押した

ピッという機械音が鳴り作戦室にあったモニターに映像が映し出さ

れた

映像にはここ最近に起きた事件のデータが映し出された

事件と言うのは、 殺人などではないがそれに近しい物だった

寒地町廃人多発生現象事件

モニター の上の方にそう示されていた。

町で廃人が多発生した事件だよ」 皆も知ってるかもしれないけど、 昨日と一昨日学園都市内の寒地

「はい、 れていて、 ニュースにもなっていましたよね。 皆が廃人になっていたって言う」 路上で何人もの人が倒

空がそう言い、理事長が頷き話を進めた

ŧ この事件はやはり神使に因るものだと判断していいだろう。 今までにない敵の行動だ」 しか

今までにない行動とは?と、秋葉が尋ねた

段なら最高でもひと月に2~3の人数だった。 もあった。 今回のように一日二日で多くの被害者が出た例がないんだよ。 だけど、 今回に限って...」 それに襲われない月

でもない。 にも引っ掛かるはずなのでは?」 被害者が急増...ですか。 もし急激な増え方をしていたのならこちら側のセンサー でも、 なぜですか?神使が急増したわけ

眉間にしわを寄せながら理事長が答えた

どうやら、 新手の敵みたいだね。 それも複数か大型の神使だ」

作戦室に居た全員が驚きを隠せなかった

大型ってことは、 前に誠二がここを襲ってきた時のようなやつな

んですか?!」

今まで静かだった二階堂がどこかそわそわしながら聞いた

性が高いね」 「まだ、 大型とは決まってないけど、 もしそうだとするとその可能

では、 一刻も早く手を打たなければなりませんね理事長」

ら言った 白鷺が座っていた椅子から立ち上がりながら理事長の方を向きなが

すまないが頼んだよ。白鷺君」

分かりました。 と白鷺が言い後ろの本棚の近くに向かった

あれ?何処行くンすか?白鷺先輩」

も無しじゃ心もたないだろ」 「君たちは、 外での戦闘は初めてだろう。 能力が有るからって武器

ったら本棚が横にスライドし、 と、言い終わると同時に、 『ピッ』という機械音がまた鳴ったと思 その後ろから数多くの武器が出てきた

「な!!ええええええぇ!」」

空は見慣れていたのか驚きはしなかった 勿論のこと守と誠二は驚愕した。 チュエーションだったのだから 何せ映画でしか見たことのないシ

好きな物を選んでくれ。 それと取り扱いには注意してくれ」

「ちゅ、注意って触ったことないですよ!」

何だ?ないのか?」

゙あ、当たり前っすよ!」

白鷺が自分たちより少しずれて要ることを初めて認識した二人だった

では、射撃場で練習しましょうか」

と、秋葉が二人に言った

射撃場!此処そんな所あるんですか!」

長の許可がないと開けれません」 「はい、 地下にあります。 ただしカードキーが必要なので私か理事

もはや何でもありだった。 守も誠二も呆気にとられるぐらいだった

に準備していてくれ」 「それでは、 一宮達が終わり次第出発とする。 真琴も一之瀬も十分

部屋には秋葉・守・誠二の三人だけとなった二人が返事を返しその場は解散となった。

それでは、私たちも行きますか」

· あ、はい」

りょ、 了解っす」

守・空・誠二サイド

学園都市

北西側

寒地町

港付近

狭間時間

現 在

寒がりの守にとっては最悪だろう 狭間時間内でも気温は通常時と変わらないようだ

風邪引くなよ。 まもりん」

わかってるよ」

空で捜している 守チームは空の千里眼で、 守・空・誠二のチームと白鷺・二階堂・秋葉のチームの二組だ 現在、部活のメンバーたちは二手に分かれて神使を捜しに回っている 白鷺チームは機器と白鷺は能力を使い上

· 先輩達見つかったかな?」

歩きながら不意に空が心配そうな声を漏らした

「まぁ、 大丈夫何じゃないかな?先輩たちだし」

「そうだよ。なんせ、 能力の応用空まで飛べるんだから」

「そう...だよね」

数秒の沈黙の後空が突然声を上げた

「あ!」

「「え!な、何!」」

「見つけた...」

「え?」

「いた!見つけたよ!」

見つけたというのが神使を指してることは二人も百も承知であった 数メートル先の倉庫を指さしながら言った

「そ、それじゃ、早く先輩たちに連ら...」

ゴワァーーという何かが崩れる音が響いた

だが、 ている巨大な生物 守達はそんなもの目に入ってなかった崩れた建物から飛び出 トル先にあった倉庫と思われる建物が完璧に破壊されていた

狼なんて言葉でかたずけられない生き物。 膚のような物が下に落ちた。 0メートル程の大きさの狼みたいな生物。 全身が腐りかけ表面の皮 だが決してその生物は

しかも、 その皮膚からも全身からも発せられる異臭がここまで届いてい その周りには黒いドロドロとした球体が不気味に浮遊して

突然の轟音。

その生物が口を開け都市全体に響くかのような凄まじい叫び。 それは数秒続いた

「ツ!」

ŧ 叫びが終わったかと思うと、 目の前まで来ていた その生物は目の前に居た。 というより

一瞬にして間を詰められていた。 敵との距離およそ3メー

避け切れない。

守達は死を確信した。

異変発生 (後書き)

どうも蜜柑です

ちょっと、今回分け分からなくなりそうな予感・・

色々後で書き直すかもしれません。 すみません

失敗 (前書き)

どうも蜜柑です

せん! ので、個人的に早く出したかったので出すことにしました。 11月は出さないって言ってたんですけど、途中までか言っていた すみま

新しく書き始めた「デスティニー・ライフ」の方も出来ればよろし くお願いします!!

一瞬。一瞬だった

ボッシャ!!と、 それと同時に、 何かの液体が飛び散ったかのような音 生々しい音があたり一面に響いた。

ただ、呆気にとられただけだった。

全身が震えだす程の寒さ赤黒い液体が中に飛び散っている背景

信じられないほどの異臭

圧倒的な状況

とも守はそう感じていただろう その全てを無視して、 この場で一番の存在感を放っていた。 少なく

ゴワァ ぶつかったみたいに崩れている。 ! كر 神使の数十メートル横にあった倉庫が何かに勢いよく

土煙が上がっていてよく分からなかったが、 さっきの化物 (神使)

が倒れているのが少しだけ見えた

あまり手荒な事をして欲しくないのだがな

そこに立っていたのは、

背中に暴風の翼の様なものを二枚纏い、手には豪く鋭い太刀を持ち。 す程の力を持ち。 この場に一瞬にして現れ、 神使を一瞬にして数十メートルふっ飛ば

優雅で圧倒的な存在感を放っているそんな人物

「「し、白鷺先輩!!」」」

うますぎる演出にツッコミも忘れてしまう 圧倒的状態からの打破。 奇跡と言って言い程のタイミング

「遅くなってすまない。 皆怪我はないか?」

゙おょょょ~。 白鷺せんぱーい」

誠二は大丈夫なようですよ」

「そのようだな」

「誠二君・・・」

その場に居た全員が呆れた顔になっていた

冗談すよ~。 そんな皆して、そんな顔しないでくださいよ

白鷺が誠二に対して溜息をつきながら、

「皆、無事で何よりだ」

守が安堵しながら、

それにしても、 流石ですね。 瞬で倒しちゃうなんて」

いや、あの分では多ぶ・・」

ガラゴガと

白鷺が何かを言い終わる前に後ろから物音が聞こえた

やはりな」

先ほど白鷺が飛ばした神使である。 土煙の中から胴体と首が今にも千切れそうな切断部。

「うわぁ~・・・」

「グロいっす・・・」

少し甘く見すぎたな。 見た目の割には、 結構頑丈じゃないか」

微かに笑みを浮かべながら白鷺が言った

「どうしますか?」

と、空が心配そうに尋ねた

゙無論。・・・・このまま切り裂く!」

持っていた豪く長く鋭い刀を構えた時だった

ブチャ ベチャ

Ļ 何か粘着質の物が取りついたかの様な気味の悪い音が鳴った

「な、なんだ!?」

動揺しながら白鷺は崩れた構えを直した

その音の正体は、 した球体だった。 先ほど神使の周りに浮かんでいた黒いドロドロと

すると、 たった数秒で、 徐々に先ほど白鷺が着けた傷が見る見ると治っていき 傷が完治してしまいそうな勢いだ。

なるほど、随分と厄介な敵だな」

白鷺が苦笑いした

. 再生すんのかよ!せっけー」

これは、一筋縄じゃ行きませんね」

「白鷺先輩どうします?!」

焦りを見せている守達と違って、 白鷺は落ち着きながら、

林は奴の右を頼む。 「二手に分かれて、 私が合図を出したら一斉に攻撃だ」 左右で攻める。 一之瀬は私は左を。 宮と東海

分かりました」

「りょ、了解です」

「任せてくださいっすよ!」

回復中の神使は、 見事に無防備の状態。 即座に守達は別れ、 追撃の

準備に入った

下手に攻撃しても、 までもないだから.. また治されてしまっては意味が無いことは言う

一撃で決める」白鷺は小さくそう呟いた

傷が完治する瞬間。 その時が攻撃のチャ ンス その時敵が最も油断する瞬間

「まだ、まだだ・・・」

その時、 黒いドロドロとした液体が離れようとしていた。

!!・・・今だ!!」

轟音

凄まじい轟音と共に、 守・誠二・ 空・真理の攻撃が一斉に放たれた

守は、空から取った電撃で

誠二は、岩石を操り、飛ばし

空も、持ち前の能力で1億ボルトの電撃槍を

そして、真理は凄まじい暴風の渦を放った

神使は、 電撃の閃光で見えなかったが、 生死など確認するまでも無

かった

そして、 最後には鼓膜を叩きつけるような爆発が起こった

や、やったのか?」

「分からない」

最後の爆発で土や砂の粉塵が上がり確認できない

「ど、どうでしょう」

• • • • •

手応えは確かにあった。 その場に居た全員の緊張は解かれなかった。 だが、 何故か違和感があった。

当たった。あれは当たったはず

皆がそう思い込んでいた。 まさにその時だった

粉塵の隙間から覗かせたのは、 神使の姿は無かった。 いせ、 隠されていた 巨大な黒く細 い壁?の様なもの

白鷺は直感し。そして、絶望した

(かわされた。 いた、 塞がれた。 あの攻撃を・

のだ。 ような作りの壁。 攻撃の瞬間、 しかも真正面から受ける壁ではなく、 神使は周りの球体を自分の周りに壁として作り上げた 強いて言えば菱形の様な作り 左右の攻撃を受け流す

クッ・・・・どうする!」

打つ手なし

能力を大幅に使い体力の消耗も激しい。

二度目を撃つには時間を開けなければこちらが倒れてしまう

切羽詰まった状況。傍から見れば最悪の状況

だが、 この瞬間に部活の勝利は確定した

数メートル先、空達からは右。 面の方にいる人物 守達からは左。 そして神使からは正

「惜しかったな、真理。 ・後は俺達が引き受ける!」

発信器から聞きなれた声が発せられた。

゙゙゙゚ま・・・!」

「「「真琴(先輩)!!」」」」

失敗 (後書き)

蜜柑です

「今回長いな!」と個人的に思います

もし、読みづらかったら申し訳ありません! しかも、なんか中途半端な終わり方してすみません!

次回はいつになるかちょっと分かりません。

成るべく早く出そうと思いますが、今月はこの作品では出さないと

思います

書いている時にどうやって表現したらいいか苦戦しました...

銃弾の豪雨 (前書き)

ません! 11月は出さないとか言っておきながら出しちゃってますね。 すみ

12月と言うか、冬休みからは本気を出したいと思います!!

どうか見ていて下さる方々は、お付き合いお願いします!

銃弾の豪雨

「一気に決めるぞ!そこから離れろ!」

れ 4人は小型通信機から発せられた真琴の声を聞き即座にその場を離 近くに建っている倉庫の横にと避難した

「 新型の連射型自動狙撃砲を具現化」

うに超大口径の狙撃砲が20機程展開され、 られ、そして そう真琴が呟くと、 周りに.....正確には神使を正面からとり囲むよ 銃口が全て神使に向け

集中砲火だ!」

の豪雨が神使に降りかかった 真琴の声と共に銃弾が発砲され先程よりも凄まじい轟音と共に銃弾

ほどだ。 鼓膜が本気で破れるくらいの轟音。 耳を塞いでも聞こえてきそうな

弾と弾がぶつかり、 すかのようにコンクリートに穴をあけた。 軌道が逸れた弾が下の地面に当たり、 引き剥が

怪物のような破壊力を持った兵器。 らそうに言った そんな兵器を見て真琴はくだな

足りないな... 全然足りない。 こんなのが新型か..

ガチッ ガチッ ガチンッ

ろうが、 弾数にして凡そ30万発。 Ļ 全ての機器から弾が打ち終わった音がした それでも凄まじい量の弾数が神使に中ったはずだ 数百発は外れて標的には中らなかっ

神使の地面が抉られたかのように滅茶苦茶になっていた。 しかし、

結構頑丈だな」

神使を包む様に作られた球体型の壁。 んでいる そこには形は変わっていたがまだ確かにそこに在った。 銃撃を受けた所が所々へつ込

だが、まぁ予想通りだな」

そう呟きながら右手をゆっくりと上げると同時に

「今です!秋葉さん!」

ドガガガガガー!

Ļ 神使の壁を的確に一点だけを狙った正確な連射狙撃

真琴より300メートル程後ろ

特殊ライフルを装備して、 攻撃瞬間を待っていた秋葉楓によるものだ

貫通性に優れた特殊弾は流石に聞いたようだな」

いた 真琴から見て、 神使の壁の中心に40?程の穴がぽっ かりと空いて

まぁ、 流石ですね.....」 最も反動が激しすぎて連射なんて出来ない筈なんですけど

等と適当な感想を呟きながら今度は筒状な物を生み出した

「何にせ、よこれで終わりだな」

続けて真琴は最新型のロケットランチャー るように言った の引き金を引きながら嘲

な 「自分で作った壁で自分の逃げ道を塞ぐとは何とまぁ.....。 哀れだ

発射された数発の弾が無慈悲に穴の中へと入っていき、盛大に爆発 した。

中は激しい業火のようになり熱気が遠くまで届く勢いだった

撃った弾はライフル弾と同じく特殊な作りで、 焼速度上げる液体がかかる仕組みになっている。 爆発すると物体の燃

ぐってわけだ」 勿論のこと内部で爆発した訳だから、 液体は残らず神使に降り注

Ŕ 独り言を呟きながら守達の場所へと向かった

~数分後~

帰宅途中 4月23日 土曜日 AM0:30

達は寮にと向かった 神使を討伐に成功し、 後の処理などは秋葉の仕事ということで、 守

「 いや~ 凄かったっすよ!真琴先輩!」

「いや、そうでもないさ」

「またまた~、謙遜しちゃって~」

ていた。 興奮気味に誠二が真琴に話し、 その少し後ろで真理・空・守が歩い

場の仕方とか仕込んでたのか!!とか言っちゃ いそうなほどタイミ じだったんですけど、真琴先輩は神々しさみたいな感じですよ!登 ングがピッタリでしたもん!」 「マジで凄かったすよ!白鷺先輩は何て言うか、 こう..... 華麗な感

「そ、そうか」

「そうですよ!あと後あの時のアレも.....」

そんな光景を後ろから見ていた守は呆れながら話した 誠二の勢いに押され気味のようだ

いですね...」 何て言うか、 誠二はもう少し他人の心を読めるようになってほし

フフ、 まぁ良いじゃないか。 真琴も満更でもなさそうだしな」

「そうですか~?空さんもそう思う?」

「うん。真琴先輩楽しそうだよ」

「楽し...そう?」

自分の思っている楽しいそうという定義を頭で再確認し、 を見帰しやや困り気味に誠二を対応している姿を見て、 再び真琴

「楽しそう.....ね~.....

「ああ」

「うん」

溜息をつきながら思った

(......間違ってんの俺だけ?)」

銃弾の豪雨 (後書き)

デスティニー・ライフの方出したの少し失敗かもしれません...

盤も序盤なんで少しだけ変えるだけかもしれません。 大幅に内容を変更して出そうと思います。 て言っても、まだ話の序 ホント言うと、勢いで書いちゃったものなんです。

本当にすみません!あと、タイトルとジャンルを変えると思います。

今回は、これから始まる物語の少し前の話

暗部組織 0

4月24日 日曜日 Α M 1

メートルの地下 学園都市内のとある雑貨店の地下の隠しエレベー ター を使い、

に操作している者が居た ハイテク機器などがズラリと配置されており、 一般人なら普通は訪れないであろう学園都市の暗部組織用の それを息をするよう

えっとー ここがこうで、 これがあそで、 これは.....何処だ?」

そこにはケーブルやプラグが繋がっていた。 年齢は凡そ1 て、頭には輪のように頭全体を覆うような機器が装着されており、 い格好をし、 所々には、周りの機器から伸びている電極が付いてい 4~15歳の少女。少女の現在のスタイルは裸体に近

淡々と電子コードやプラグを周りの機器や頭の機器に指しこみ、 れと同時にPCを操作している。 そ

作業に疲れたのか頭の機器を外しその場に置き横になった

だー 疲れたっての!もう、 先輩マジ手伝ってくださいっすよ

先輩と声をかけた先には高級な椅子に座り足を机の上に置きながら 惰眠をしていた

先輩聞いてんですか~。 人に任せるなんて」 ありえないっすよー !こんなか弱い 少女

何がか弱いだ。 てか、 これでも俺は仕事をしてるんだよ」

どんなっすか?!ただ寝てるだけでしょうが!」

予想にもしない返答でその場に勢いよく立ちあがった

寝るのも人間としての仕事の一つなんだよ」

うがー!と言ってその少女はその場にくずれた。 く気力が無かった。 なので、 もはや少女には動

「じゃあ、私も寝ますからね!」

「それはだめ」

「何でつすか!?」

「仕事が進まないでしょー?」

「じゃあ、なおさら手伝ってくださいよ!」

Z Z Z

「寝るなー!!」

??? 同時刻 場所不明

そこは、 場所であった。 なにも無い部屋だった。 なせ 違う。 何も無いが特徴的な

などは勿論ないが扉だけが中に浮かんでいた。 の部屋。上下左右のない部屋。言ってしまえば無重力空間だ。 一面が白で覆われ、 何処まで続いて要るか分からないほどの大きさ 家具

そんな部屋に二人の人物が居た。

片方はスーツを綺麗に着こなした紳士。 それが様になっている青年 片や制服で着崩しているが

両者とも部屋の色とは反対に黒の服を着込んでいた。

二階堂

空中で転寝していた青年が不機嫌そうに眼を覚ました

4月18日。 我々の部下がお世話になった人物だよ」

そんな名前だったけか?そいつかどうかしたのか

「いや、 別に何も.....。 ただ、その人物が所属している組織の事で」

青年はめんどくさそうに暫く考え込んだ後に口を開いた

護り人だったけか?」

いや、 そちらではない、もう一つの方だ」

もう一つ?.....あ、あー。あれか、 何だっけ?部活だったけか?

あっちはただの正義ごっこだろうが。気にする事でもあんのか?」

確証は無いがメンバーの一人に自然適用者が居るらしい」

今まで詰らなさそうに聞いていた青年が体の体勢を直し聞き返した。

自然適応者だと?

確証はないがな。それと不可解な点がまだある」

確かに、部活は清掃係のようなものだ。不可解な点?」 だがしかし、 あれ程の戦

力を何故そちらに回したのかが理解できない」

| | | | | | | | | | | それと白鷺財閥のご令嬢だったか?」

ツの男は黙って頷き話を続けた

リーダー 格に慣れる素質が在るにもかかわらづ.....」 二階堂。 それと、 白鷺。 両者ともレベルは9この時点で小組織の

· 清掃員....」

のメンバーには、 「だが、二階堂だけは護り人に務めている。 内密らしい」 しかも、 どうやら部活

それを聞きた青年は笑みを浮かべた。 ムを楽しむかのように。不気味で悪意に満ちた笑み これから始まろうとしている

「イイね。最高に楽しくなりそうじゃんかァ」

「動くのか?」

.....ちっとばかし早いお祭りだ。 最近動いてなかったからな

ぁ〜。 派手にやろうぜェ!」

「了解を得なくていいのか?」

良いんだよ。 何時も通り命令が無い限りは自己判断で自己責任だ。

... さぁ ~ て行くかァ~。 手土産は実験材料ってな~」

では、 私は自然適応者の方を、 お前は二階堂の方を」

扉を開けながら青年は聞いた

`んで、そいつの居場所は?」

男は答える

オッ こちらに情報によると今は南西の方に居るらし !久々の運動だ。 はしゃ いじゃうかもなぁ

学園都市 南西側 満開町 とある屋敷内

常に花が満開になっている町。

花見などは冬場以外全ての季節で行える。 そんな町の敷地の半部私有している財閥が在った。 白鷺財閥との関わりも深い財閥である 夢のような町

その屋敷内で一人の女性が不機嫌そうな顔になっていた

「はぁ.....」

「どうなされましたか、お嬢様」

深い溜め息を吐いた主にメイドが心配そうに尋ねた

「どうもまた騒がしい事になりそうだわ.....」

「どうなさいましょうか?」

かしら?」 「放って置くのもなんだし.....。 そうね、 軽く潰してきてくれない

満面の笑みでそうメイドに伝え、 メイドはお辞儀をし、 答えた

畏まりましたお嬢様」

進むでしょう?」 しておきますので、 どうも有り難う、 感謝するは。 一緒にやって来ては如何かしら?その方が早く あ どうせなら、 あのお方に連絡

・感謝いたします」

いい土産話を期待しているわ」

暗部組織 0 (後書き

夜中に書いたからテンションがおかしくなっています ややこしくなるかもしれません。

誤字があったら教えて下さい

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 など 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きイ 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 ・ンター そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 タ 0 いう目的の 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n0736w/

超能力学園

2011年11月28日02時52分発行